

# 取扱説明書

## 電動型アシスト車いす アクトモア レボリア

リチウムイオンバッテリー / ニッケル水素バッテリー

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。  
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項  
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

### 目 次

1 ご使用上の注意	P2	アームサポート(肘置き)の使いかた	P17
2 製品の特長	P6	転倒防止バー	P18
3 各部の名称	P6	駐車ブレーキの掛けかた	P18
4 適合調整	P8	移乗のしかた	P18
5 使用前の準備と点検	P13	外出時の注意点	P19
車いすの点検	P13	航空機に乗るとき	P20
服装のチェック	P13	10 バッテリーの使用方法	P21
6 電動部の操作方法	P14	バッテリーの種類	P21
車いすを動かす	P14	バッテリーの特長	P21
オートパワーオフ機能	P14	バッテリーの脱着	P22
車いすから降りる	P14	バッテリーの温度環境	P23
バッテリーの残量確認	P14	バッテリーの充電方法	P23
7 走行診断チェック	P15	充電ランプの表示と内容	P26
使用者のかたへ	P15	11 保守・点検	P27
介助者のかたへ	P15	12 故障かな?と思ったら	P28
8 基本操作の練習	P16	13 仕様	P32
9 使用方法	P17		
開きかた、たたみかた	P17		
フット・レッグサポートの使いかた	P17		

# 1 ご使用上の注意

## ⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】

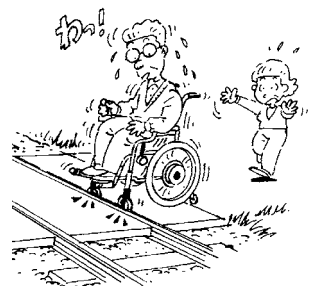


- 急な坂道を下る場合は、後ろ向きで下ってください。  
前向きで下ると使用者が転落する可能性があります。
- 勾配が6度以上の坂では使用しないでください。  
転倒したり、制動がきかなくなるおそれがあります。
- 本製品は、法令上は身体障がい者用車いすとなり、道路を走るときは歩行者として扱われます。  
歩行者としての交通ルールやマナーを守ってください。
- 加速時の急カーブ、急停止はしないでください。  
バランスを崩しやすく転倒するおそれがあります。
- 次のような場所では走行を避けてください。
  - ・交通量の多い道路 ・砂利道 ・凹凸のある道 ・ぬかるみ ・雪道 ・凍結路
  - ・防止柵のない側溝や路肩付近など ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所
- 次のような場合は走行を避けてください。
  - ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。雨天時は路面がすべりやすくなり危険です。
- 次のような場所は必ず介助者が付き添い、使用者の体を支えるなど注意しながら使用してください。
  - ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター ・車いす対応の動く歩道
  - ・車いす対応の福祉車両 ・バス・電車の乗降 ・その他危険が予想される場所
- 左右の駆動輪が確実に固定されているか確認してください。  
着脱レバーを起こして手前に引くと駆動輪が外れる仕様になっています。  
固定されていない状態で操作すると駆動輪が外れる可能性があり大変危険です。

## ⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

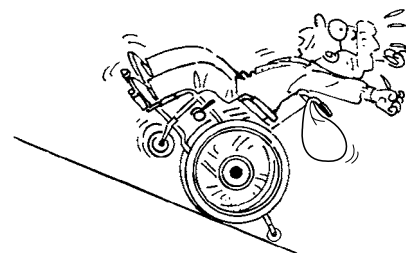
- 使用者がひとりで走行する場合や介助者が同行・操作する場合は、必ず使用者や介助者の適性を専門家の意見を参考に判断してください。  
使用者や介助者の意見だけで判断すると、使用者や介助者、周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 操作に慣れるまで、平坦で安全な場所で介助者同伴のもと、走行の練習をしてください。  
不慣れな状態で一般公道に出ると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- お酒を飲んだり、眠くなる薬を飲んだ場合は運転をしないでください。
- 使用する環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。  
単独走行では、事故やケガをするおそれがあります。
- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。  
斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にならしてください。
- 本製品の改造や分解はしないでください。  
強度や耐久性が低下したり、事故の原因となるおそれがあります。
- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。  
事故の原因となります。調整が必要な場合は当社までご連絡ください。
- 本製品を火気に近づけないでください。  
シート部が燃えたり、プラスチックなどの変形や熱くなった金属部分でやけどをするおそれがあります。
- 車いす本体や車輪に異常がある状態で使用しないでください。  
走行中に車いすが壊れて、転倒や転落するおそれがあります。異常が見つかったらただちに使用を中止してください。
- 駆動輪の空気圧が下がったまま使用しないでください。  
駆動輪の空気圧が下がると駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあり危険です。標準空気圧は、大人が親指で押し少しへこむ程度です。(P27「11 保守・点検」参照)
- 本製品の使用者最大体重(100kg)を守ってください。
- 車いすは1人乗り用です。2人以上で座って動かさないでください。  
介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。



# 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 車いすでけん引をしないでください。  
車いすが故障したり、ケガをするおそれがあります。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助用具としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 座面シート以外の部分に腰掛けないでください。
- 混雑した場所で使用するとき、まわりに十分注意をしてください。
- ハンドル部に重い荷物を掛けて運転しないでください。  
上り坂で後ろに倒れやすくなり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。



- 転倒防止バーを外したりロックを解除したままで走行しないでください。  
転倒しケガをするおそれがあります。転倒防止バーは、介助操作で段差を乗り越えるときなどの場合に限ってロックを解除した状態で使用してください。  
また、バス・タクシー・電車などから降りたときも、必ず転倒防止バーが出ていることを確認してから走行してください。
- 大きな段差や障害物を上り下りする場合は、手動で上り下りしてください。  
電動操作で上り下りするとバランスを崩しやすく、転倒してケガをするおそれがあります。  
また段差の高さによっては、一時的に転倒防止バーのロックを解除して介助操作で段差を乗り越えてください。  
乗り越えた後は必ず転倒防止バーを元の位置に戻し、ロックできていることを確認してから使用してください。
- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。  
段差の前でいったん停止してから慎重に乗り越えてください。決して勢いをつけて乗り越えないでください。  
フレームおよびキャストなどが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。
- 発進するときや小さな段差を乗り越えるときには、キャストが真っすぐになっていることを確認してから走行してください。  
斜めに進入したり、キャストが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。

- フットサポート(足置き)に立ったり、直接体重をかけないでください。  
フットサポートが破損したり、バランスをくずし、倒れるおそれがあります。

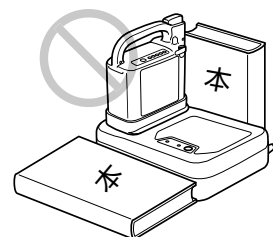
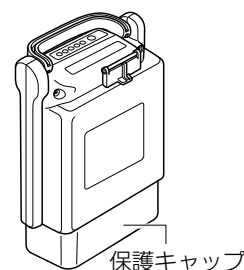
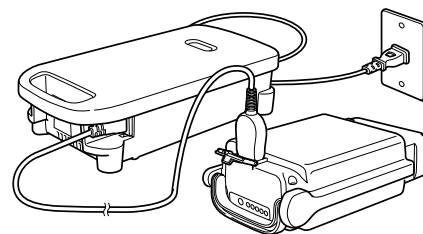


- 混雑した場所で止まったときには必ず電源を切ってください。  
まわりの人の手や腕がハンドリムに接触して不意に発進し、周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 介助操作時に坂を下る場合は、後ろ向きで下りてください。
- 傾斜地・坂道での走行は特に注意してください。  
傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすくなるなど大変危険です。
- 急な坂道での横断や斜め走行はしないでください。  
バランスを崩しやすく転倒するおそれがあります。
- 車いすでの走行中は、体を乗り出さないでください。  
車いすが不安定になり危険です。
- 体が前のめりにならないよう注意してください。  
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うなど体を前のめりにすると、車いすから落ちたり、車いすごと転倒しケガをするおそれがあります。
- 下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。  
このような服装で運転すると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
  - ・丈の長いマフラー ・袖口の広い服 ・裾の広いズボン・スカート
  - ・素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など
- バックサポート(背シート)、アームサポート(肘置き)、スイングレバーを持たないでください。  
車いすを持ち上げる場合は駐車ブレーキを掛け、固定されているパイプをしっかり支えてください。  
持ち上げると車いすから外れるなど大変危険です。

# 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 走行中に電源スイッチを切らないでください。  
駆動輪にブレーキがかかり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 携帯電話などを使うときには、安全な場所に停止して車いすの電源を切ってください。また、電動走行中は携帯電話などの電源を切ってください。  
事故の原因となるおそれがあります。
- 車いすの乗り降りは、必ず電源を切ってから平坦な場所で行ってください。  
電源が入っていると、体が操作レバーにあたって車いすが動き出し、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。また、傾斜のある場所で車いすの乗り降りをする、バランスを崩しやすく車いすから落ちてケガをするおそれがあります。
- 電源スイッチを入れたままアームサポート（肘置き）を取り外さないでください。  
不意に車いすが動き出したとき、アームサポート（肘置き）で体を支えることができず、使用者がバランスを崩し転倒しケガをするおそれがあります。
- 電動アシスト走行中に、突然ブザーが鳴り、警告ランプが点灯した場合は、電動アシスト走行を中止してください。  
システムが故障しているおそれがありますので、当社までご連絡ください。
- バッテリー残量不足のブザーが鳴ったときには、速やかに安全な場所に移動してください。  
道路横断中など身動きが取れなくなるため大変危険です。
- バッテリーや充電器はまちがった取り扱いかたをすると、発熱・破裂や、感電、ケガの原因になります。必ず使用方法を守ってください。
- バッテリーを専用充電器以外のものでも充電したり、指定の車いす以外のものに使用しないでください。
- バッテリーや充電器の分解や改造をしないでください。
- バッテリーや充電器を火に近づけたり火の中に入れてしないでください。
- バッテリーや充電器を水に入れたり、水をかけたりしないでください。
- 走行中にバッテリーを抜かないでください。  
駆動輪にブレーキがかかり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 取り外したバッテリーには必ず保護キャップをつけて保管してください。  
接点部が露出しているとショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になります。
- バッテリーの+端子と-端子を針金などで接続したりしないでください。  
また金属製品と一緒に持ち運んだり保管はしないでください。  
+端子と-端子に手や物で触れたりしないでください。
- バッテリーや充電器を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。  
バッテリーが壊れたり、発熱・破裂の原因となることがあります。
- 壊れたり傷んだりしたバッテリーは使用しないでください。
- 幼児やペットが近づくところではバッテリーの保管や充電をしないでください。
- 充電器は不安定な場所で使用しないでください。また、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。
- 屋外や燃えやすいものの近くで充電器を使用しないでください。
- 傷んだコードは使用しないでください。
- 車いす側の差込口の中が汚れている状態や濡れている状態でバッテリーを差し込まないでください。  
ショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になることがあります。
- 保管中に不用意に電源が入らないように、使用しないときには、必ずバッテリーを外しておいてください。  
車いすを自動車などにのせるときも車いすからバッテリーを外してください。
- バッテリーや充電器が変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なることに気がついたときには、バッテリーや充電器の使用を停止し当社まで連絡してください。
- ニッケル水素バッテリーの充電中は充電器の吸気口、排気口をふさがないでください。

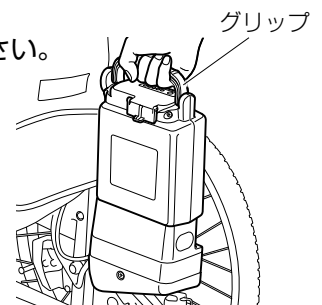
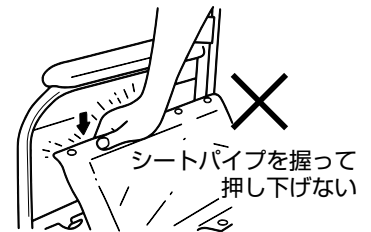




# ⚠ 注 意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

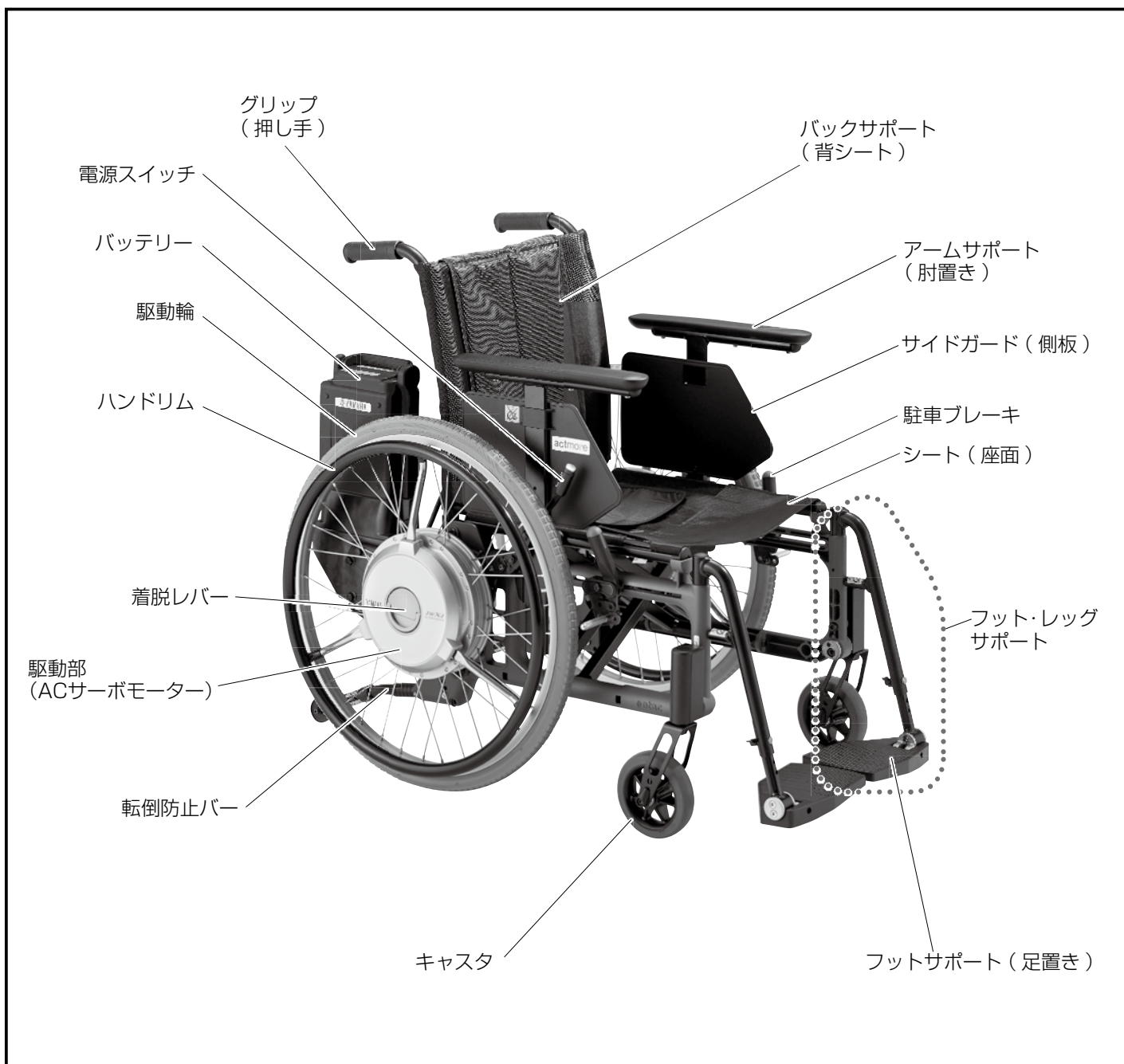
- 使用する前には各部を点検してください。  
車いすは“動くもの”ですから、長時間の使用により劣化が生じます。  
使用する前には必ず点検をし、異常が見つかったらただちに使用を中止してください。
- 車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 車いすをさかさまにしないでください。  
さかさまにした場合、部品や車いすの一部が落ちるなどして、ケガや車いすの損傷の原因になります。
- 走行中は、足を必ずフットサポート(足置き)の上に乗せてください。  
足を地面に着けたままで走行したり、フットサポートから下ろして走行すると、フットサポートと地面の間に足が巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 靴を履かずに足をフットサポート(足置き)に乗せて使用する場合は十分注意してください。  
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちてケガをするおそれがあります。
- タイヤをもって車輪を操作しないでください。  
駐車ブレーキで指を挟みケガをするおそれがあります。
- 安定した姿勢で座ってください。  
座面シートに深く座ってください。
- 介助者は、使用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。  
使用者の体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャストおよび地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 車いすの乗り降りの際など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。
- 乗り降りの際には駐車ブレーキに体重をかけないでください。  
ブレーキレバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 車いすを開くときにシートパイプを握って押し下げないでください。  
手や指を挟みケガをするおそれがあります。
- シートパイプがシート受けに収まっている事を確認して使用してください。  
万が一、シート受けから浮いた状態で使用すると、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながるおそれがあります。
- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、  
屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。  
低過ぎると路面の凹凸や障害物にフットサポートが当たり、転倒しケガをするおそれがあります。
- アームサポート(肘置き)を取りつけるとき、手や衣服を挟み込まないよう注意してください。
- 駆動輪のスポークに指を差し込まないでください。  
指を挟みケガをするおそれがあります。
- 後進時、人や物にぶつからないように注意してください。
- 電源を入れた状態では、バッテリーを交換しないでください。  
接点部がこわれたり、車いすの故障の原因となります。
- 電源コードを引っ張って抜かないでください。  
断線の原因になります。
- バッテリーや車いすを、高温になる場所や直射日光が当たる場所に置かないでください。  
故障したり、バッテリーの劣化が早く進む原因になります。
- バッテリーのヒューズが切れた場合、ご自身で交換せず当社まで連絡してください。  
ヒューズが切れた原因を取り除かずにヒューズを交換すると、  
ふたたびヒューズが切れたり、本体ユニットが故障したりするおそれがあります。
- リチウムイオンバッテリーの着脱時はバッテリーのグリップで指を挟まないように  
注意してください。  
指を挟みケガをするおそれがあります。



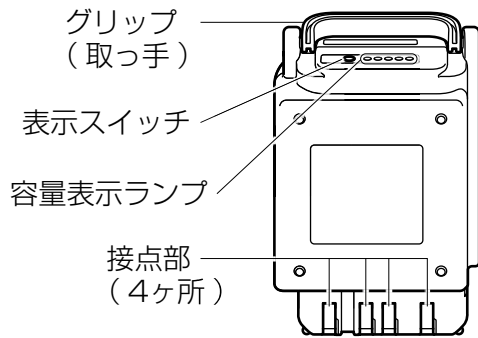
## 2 製品の特徴

- 電動アシスト機能により小さな力でも思い通りの手動走行ができます。
- 1回の充電で40km走行が可能なリチウムイオンバッテリーと、コンパクトながら20km走行が可能なニッケル水素バッテリーから選べます。
- お体の状態や環境に合わせてアシスト力の調整や片流れ防止機能などの設定ができます。
- 調整機能が充実したモジュール車いすをベースにしているのでお体に合わせた調整ができます。
- 駆動輪を取り外すことができ、車のトランクへの積み込みができます。

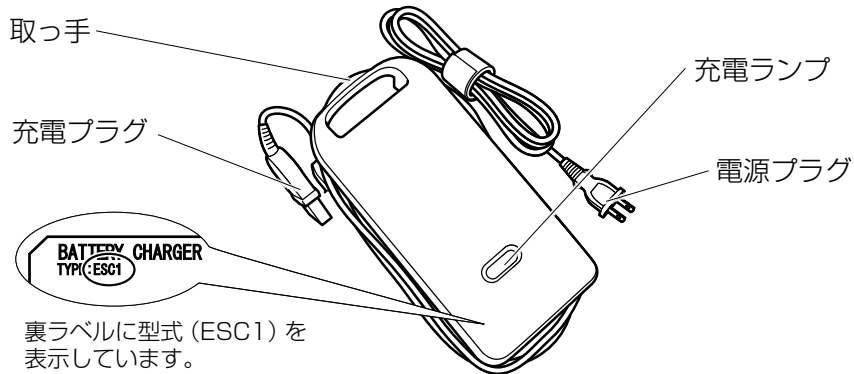
## 3 各部の名称



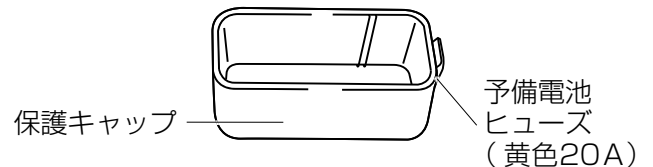
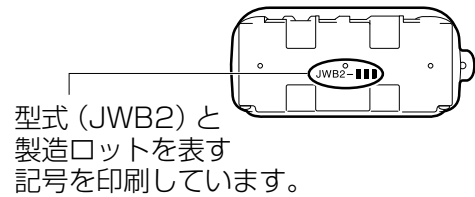
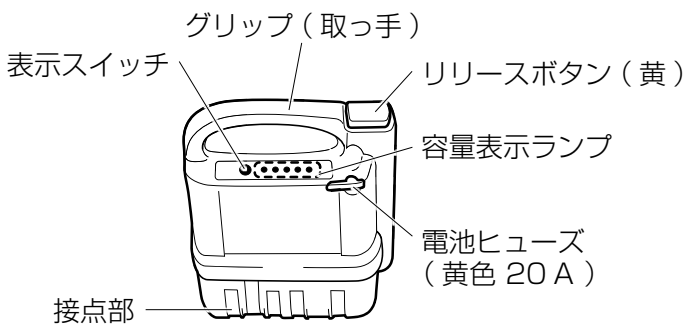
## リチウムイオンバッテリー



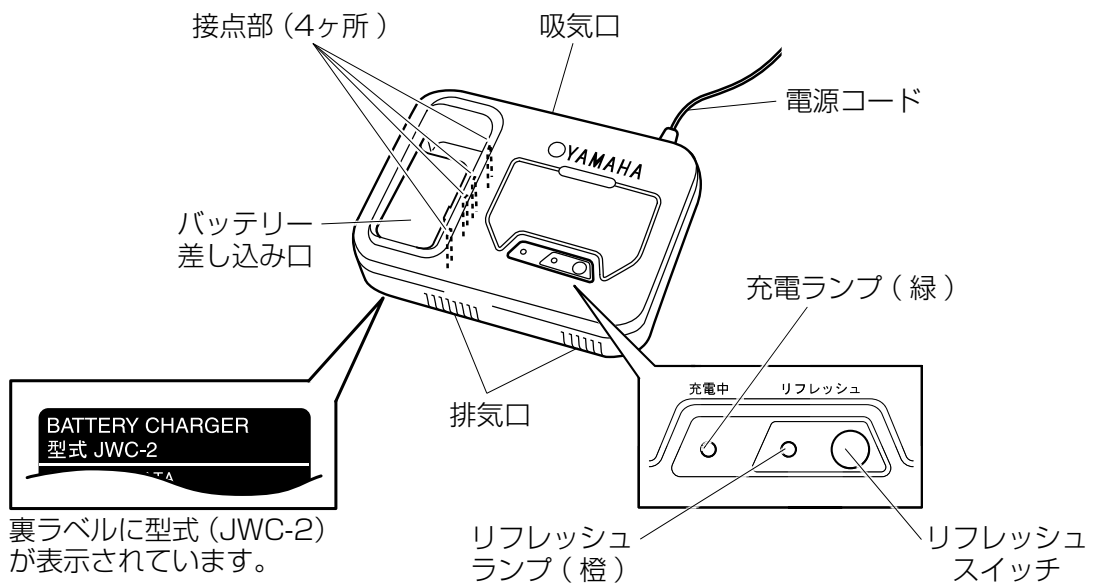
## リチウムイオンバッテリー用充電器



## ニッケル水素バッテリー



## ニッケル水素バッテリー用充電器



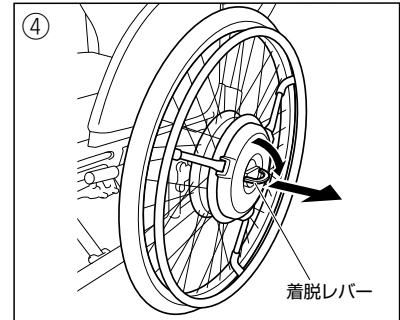
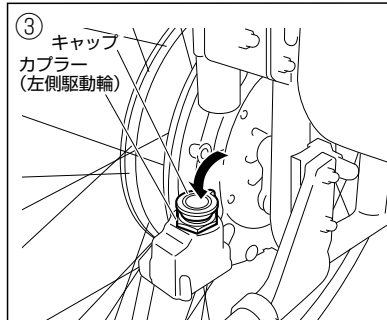
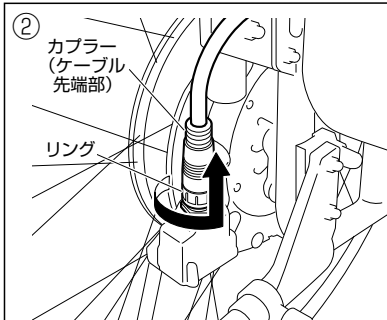
# 4 適合調整

## 1. 駆動輪の脱着

駆動輪は取り外すことができます。

### 取り外しかた

- ① 電源を切り、バッテリーを取り外してください。
- ② 左側駆動輪の裏側につながっているカプラー（ケーブル先端部）を抜くため、カプラーのリングを反時計回りにゆるめ、カプラー（ケーブル先端部）を抜いてください。
- ③ ほこりなどが入らないようにカプラー（左側駆動輪）のキャップを閉めます。
- ④ 駆動輪の着脱レバーを起こして手前に引くように取り外してください。右側の駆動輪は、バッテリー収納部を支えながら取り外してください。

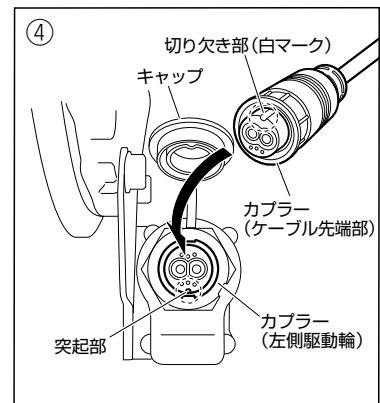
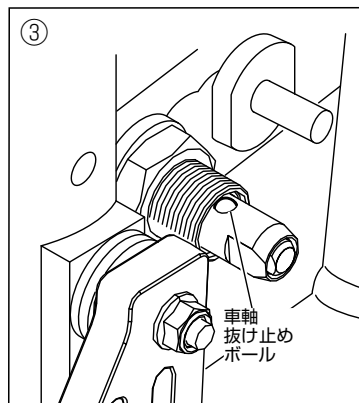
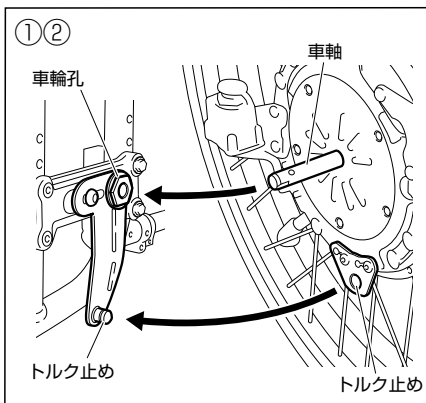


**⚠ 警告** 取り外したバッテリーは必ず保護キャップをつけて保管してください。ショートするおそれがあります。

**⚠ 注意** 取り外したケーブルにキズが付かないように右側の駆動輪に巻きつけてください。

### 取り付けかた

- ① 着脱レバーを起こした状態で車軸の先端を車輪孔へ入れてください。
- ② トルク止め部を合わせて駆動輪を押し込みます。
- ③ 着脱レバーを戻して車輪抜け止めボールがロックしていることを確認してください。
- ④ 左側駆動輪の裏側にあるカプラー（左側駆動輪）のキャップを外し、カプラー（ケーブル先端部）の切り欠き部（白マーク）をカプラー（左側駆動輪）の突起部に合わせて差し込んでください。
- ⑤ ケーブル先端のリングを時計回りに回して締めてください。カプラーが抜けないことを確認してください。



**⚠ 危険** 必ず駆動輪がしっかりと固定されているか確認してください。駆動輪の取り付けが不完全だと走行中に外れるおそれがあります。



## 2. 車軸位置の調整

駆動輪の車軸位置とキャストの高さを調整することで、座面の高さや、駆動性を変えることができます。使用者の身体状況や、使用目的に合わせて車軸の位置やキャストの調整をすることができます。

※車軸や前座高の高さを調整する場合は、必ず当社までご連絡ください

後座高	前座高	駆動輪	キャスト	車軸位置調整
40.5・42.5・44.5cm	40.5～44.5cm	22インチ	5インチ	9ヶ所

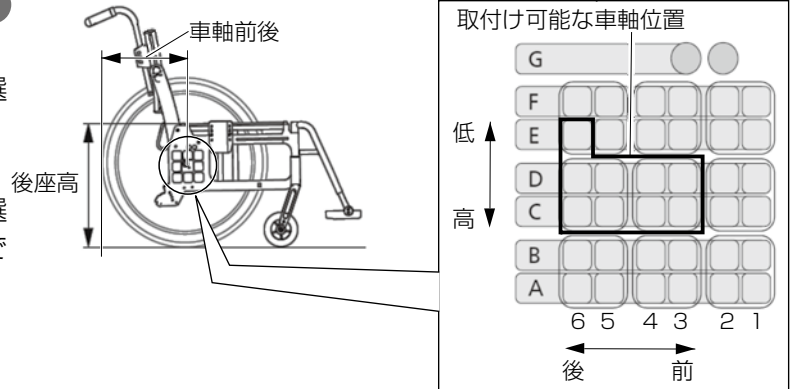
### 車軸の調整

#### 《後座高の高さ調整》

サイドフレームにあるC～Eの車軸位置を選び、後座高の高さを調整することができます。

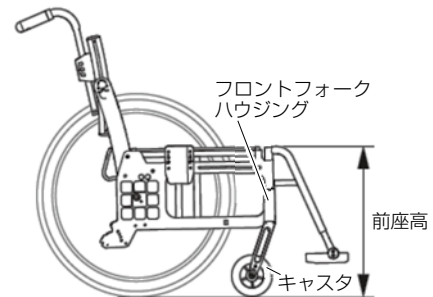
#### 《駆動輪の前後位置調整》

サイドフレームにある3～6の車軸位置を選び、駆動輪の車軸を前後に調整することができます。



### 前座高の調整

車軸位置に合わせて、前座高の高さを調整してください。フロントフォークハウジングとキャスト位置の調整をすることで前座高の高さを変えることができます。



## 3. 駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキの位置を調整することができます。

折りたたみ式延長ブレーキへの取り替えも可能です。折りたたみ式延長ブレーキは用途に応じて、固定式へ組み替えることもできます。

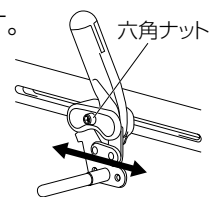
(下記「折りたたみ式延長ブレーキのつけかた」参照)

### 駐車ブレーキの位置調整のしかた

- ① 本体フレームの外側のブレーキを固定している六角ナットをゆるめ、前後にスライドさせます。ブレーキをかけていない状態で駆動輪から約2cm離れている程度がめやすです。
- ② 位置が決まったら六角ナットをしっかり締めます。

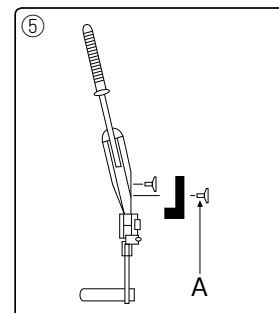
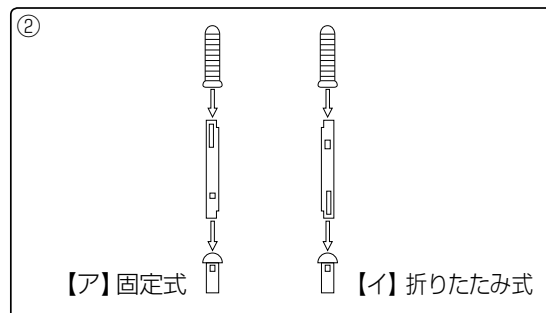
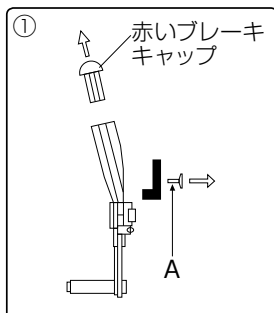
#### ⚠危険

駐車ブレーキ調整後は必ず、駐車ブレーキの利きを確認してください。



### 折りたたみ式延長ブレーキのつけかた

- ① 駐車ブレーキ本体についている赤いブレーキキャップを外し、駐車ブレーキ横(本体内側)にあるネジ(A)を外します。
- ② 使い方に合わせて延長ブレーキレバーの向きを決めます。(【ア】固定式として使用 【イ】折りたたみ式として使用)
- ③ 延長ブレーキレバーを固定パーツに差し込みます。
- ④ 組み立てたブレーキを、赤いブレーキキャップを外した駐車ブレーキ本体に差し込みます。
- ⑤ 本体固定用のネジと①で外した(A)のネジを再度取り付けて固定します。



## 4. アームサポート(肘置き)の調整

- ① アームサポートアタッチメント(肘置き差し込み口)は2段階に調整することができます。
  - ◆ ポジション1：17～26cm
  - ◆ ポジション2：22～32.5cm
- ② サイドガード(側板)の下部についているアームサポート高さ調整ネジを外して高さを調整します。(1cm間隔)



サイドガード(側板)  
アームサポート高さ調整ネジ  
アームサポートアタッチメント(肘置き差し込み口)

## 5. フット・レッグサポートの調整

使用者の体に合わせフット・レッグサポートの高さを調整することができます。

### ⚠ 警告

使用者が搭乗したままフット・レッグサポートを調整する場合は、足を挟み込んだり、股関節の可動域に支障をきたさないように十分注意して行ってください。

### フットサポート(足置き)の高さ調整のしかた

- ① フット・レッグサポートの支柱の下側についているレッグサポート高さ調整ネジを外し、六角ボルトを抜きます。
- ② 高さを調整し、外した六角ボルトを差し込み、レッグサポート高さ調整ネジを締めて固定します。

### ⚠ 注意

- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。屋内では敷居など、屋外では段差などにフットサポートが当たらないようご注意ください。
- ボルトを差し込むときは、六角ボルトの角とパイプの角を合わせてから蝶ネジで固定してください。ネジの取り付けが不十分だと、フットサポートが安定せず蝶ネジも外れやすくなるので注意してください。

### フットサポート(足置き)の角度・奥行き調整のしかた

#### 〈角度調整〉

- ① フット・レッグサポートとフットサポートの接続部分の角度調整ネジを2ヶ所ゆるめます。
- ② フットサポートの角度を調整し、2ヶ所のネジを締めて固定します。

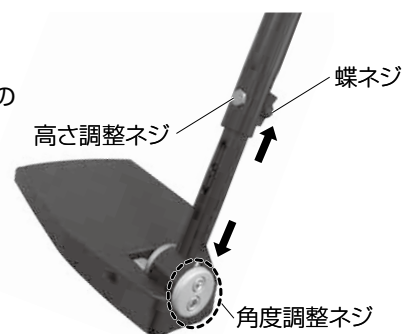
#### 〈奥行き調整〉

フットサポートを左右入れ替えると、奥行きを変更することができます。

- ① 左右のフット・レッグサポートの支柱の下側についているレッグサポート高さ調整ネジを外し、六角ボルトを抜きます。
- ② フットサポートを左右入れ替え、フット・レッグサポートに差し込み、高さを調整した後に固定します。

### ⚠ 警告

- フットサポートの上には絶対に立たないでください。転倒するおそれがあります。
- フット・レッグサポートを持って、本製品を持ち上げないでください。フット・レッグサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。



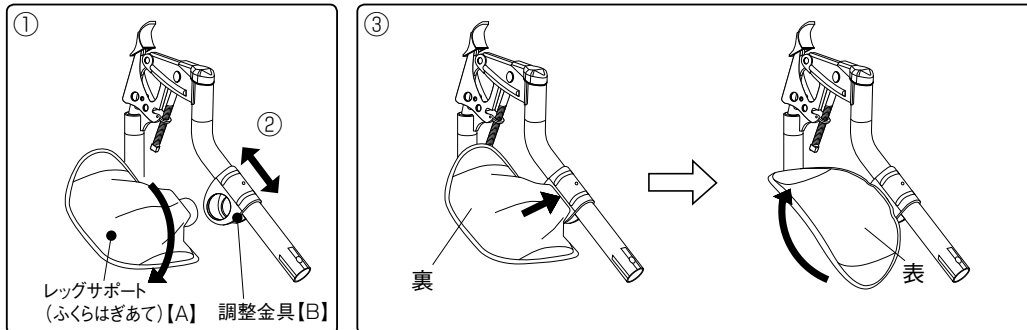
## 6.エレベーターフット・レッグサポート(オプション)の調整

エレベーターフット・レッグサポートは、ひざ下の角度調整をすることができます。

### レッグサポート(ふくらはぎあて)の調整のしかた

レッグサポート(ふくらはぎあて)【A】は身体状況に合わせて2段階に調整することが可能です。

- ① レッグサポート(ふくらはぎあて)【A】を回転させて調整金具【B】から外します。
- ② 調整金具【B】をスライドし上下させ、2ヶ所の穴のどちらかに調整します。
- ③ 調整後、調整金具【B】にレッグサポート(ふくらはぎあて)【A】を差し込み、回して固定します。



## 7.シート(座面)奥行き調整

シート(座面)の奥行きは37~42cm(バックサポートフレームからシート(座面)先端寸法)まで調整可能です。

- ① シート(座面)の手前側にある黒いマジックテープをゆるめます。
- ② 使用者の身体状況に合わせてシート(座面)を前後させて、奥行きを調整してください。
- ③ 奥行きが決まったら、マジックテープをしっかりと留めてください。

### △注意

調整を行った際は、左右の長さが同じことを確認してください。

### ポイント

軽く車いすをたたんだ状態で行くと、シート(座面)の奥行き調整がしやすくなります。



## 8.転倒防止バーの調整

転倒防止バーの高さ、角度、長さの調整をすることができます。

### ポイント

転倒防止バーの小車輪が地面に接地したとき、キャストと地面のすき間が5~10cmになるように調整してください。

高さ：2段階の調整ができます。

- ① 本体フレームにある角度固定穴のネジをレンチで外し、六角ボルトを抜いてください。
- ② 転倒防止バーを取り外し、180度回転させ本体フレームに差し込んでください。
- ③ 角度固定穴に六角ボルトを差しレンチでネジを固定してください。

角度：4段階の調整ができます。

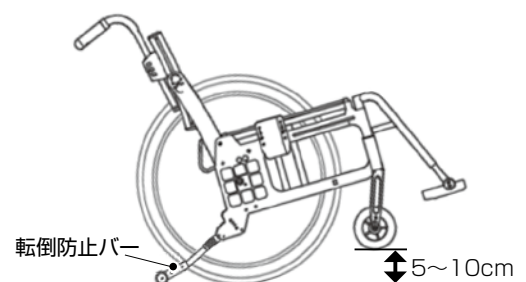
4つの角度固定穴より1つ選び金具で固定してください。

長さ：4段階の調整ができます。

調整ピンを押しながら穴の位置を変更してください。  
カチッと音がして穴に入ったことを確認してください。

### △警告

転倒防止バーを外したりロックを解除したままで走行しないでください。



## 9.バックサポート(背シート)調整

### 角度調整のしかた

バックサポート(背シート)の角度は、使用者の体に合わせて調整ができます。

- ①バックサポートフレーム下端に固定されている、2ヶ所のナットを反時計回りに回してゆるめます。
- ②使用者の体に合わせ角度を決めて、2ヶ所のナットを時計回りに締めて固定します。

バックサポートフレームとアームサポート(肘置き)の距離で左右の角度を比べてください。

**△警告** バックサポートの角度を調整する際は、バッテリーに干渉しないように調整してください。

### 高さ調整のしかた

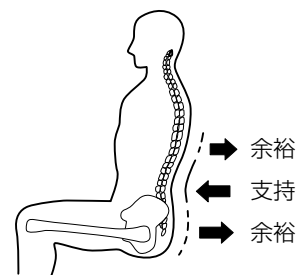
バックサポート(背シート)の高さは4段階2.5cm刻みで高さ調整できます。

- ①バックサポート(背シート)のカバーを外し、背パイプに差し込んであるベルトの下側を上にはずらします。
- ②バックサポートフレーム下方の内側を向いている2ヶ所のネジをレンチで外し、バックサポートフレームを上下して左右の高さを決めます。
- ③外したネジを差し込み、レンチで固定します。

### バックサポート(背シート)の張り調整のしかた

使用者の体に合わせバックサポート(背シート)の張り調整ができます。

- ①バックサポート(背シート)のカバーをめくります。
- ②使用者の背中形状に合わせて、ベルトを張ったりゆるめたりして、面ファスナーで固定してください。
- ③バックサポート(背シート)のカバーを戻します。



- △注意**
- バックサポート(背シート)をゆるめるときは、使用者の体をしっかりと支えながら行ってください。
  - バックサポート(背シート)を調整する際、強く張りすぎないように注意してください。バックサポートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。
  - 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。

## 10.グリップ(押し手)の高さ調整のしかた

上記「9.バックサポート(背シート)調整 高さ調整のしかた」を参考にグリップ(押し手)の高さの調整をしてください。

## 11.スマートチューン設定

身体状況や使い方に合わせて機能設定や走行パラメータ設定を変更することができます。

この変更は「スマートチューン」が入った専用のパソコンを使い、「機能設定」と「走行パラメータ」の設定ができます。※設定の変更は当社までご連絡ください

### (1) 機能設定

- ① オートパワーオフ機能  
(初期設定：5分)  
電源が入った状態で一定時間動かない場合、自動で電源をオフにする機能です。  
「5分/10分/60分/なし」から選択できます。
- ② ブザー音(初期設定：オン)  
スイッチのオン、オフ時のブザー音を設定できます。  
「オン/オフ」から選択できます。
- ③ スイッチLEDの明るさ(初期設定：1)  
電源スイッチLEDと切り替えスイッチLEDの明るさを調整できます。  
「3/2/1/オフ」から選択できます。  
※電源を入れた時は3の明るさで点灯し、数秒後に選択した明るさとなります

### (2) 走行パラメータ設定

- ① アシスト範囲(初期設定：モード1・2共に3km/h)  
アシストを行う上限速度を5段階(2~6km/h)に調整できます。
- ② アシスト力(初期設定：前進/モード1は10%、モード2は30%、後進/モード1・2共に60%)  
前進方向と後進方向のアシスト力を個別に設定できます。  
前進は0~100%、後進は60~100%の調整ができます。
- ③ 直進性/旋回性(初期設定：中立)  
直進性の機能を高めると真っすぐ走りやすくなり、旋回性の機能を高めると小回りがしやすくなります。
- ④ 左右のバランス応答性(初期設定：1.0)  
左右のハンドリム感度の調整ができます。標準を1.0とし、0.6~2.6倍まで調整できます。
- ⑤ 片流れ防止機能(初期設定：オフ)  
走行路の横斜面を検知し、自動的に片流れを防ぐ設定ができます。  
「オン/オフ」から選択できます。
- ⑥ 惰走距離の調整機能(初期設定：ソフトモード)  
ハンドリムをこいで手を離れた後の進む距離の設定ができます。  
「縮小/ソフト/標準/セミロング/ロング」のモードから選択できます。



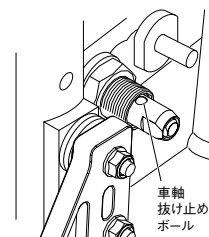
# 5 使用前の準備と点検

## 1. 車いすの点検

点検して異常が見つかったときには当社に連絡してください。以下は正常な状態です。 ①

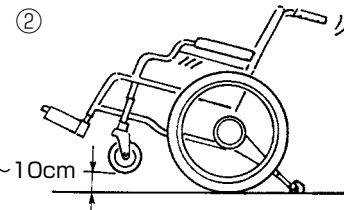
### ① 駆動輪

- タイヤ溝がある
- タイヤ表面に亀裂が入っていない
- タイヤに空気が入っている
- 着脱レバーが格納されている
- 車軸抜け止めボールがロックされており、車輪が外れない



### ② 転倒防止バー

- 転倒防止バーが変形したり、大きな傷がついていない
- 転倒防止バーが出ている
- 転倒防止バーを左右にふっても、ロックされて動かない
- 転倒防止バーの小車輪が地面に接地したとき、キャストと地面のすき間が5~10cmになっている



### ③ 駐車ブレーキ

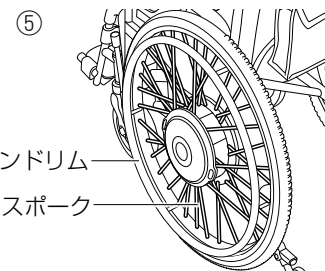
- 駐車ブレーキが駆動輪をロックしている
- 両輪ともブレーキを掛けた状態で車いすを押したときタイヤが動かない
- 駐車ブレーキの取り付けにガタつきがない

### ④ フットサポート(足置き)の高さ

- フットサポートは地上高さより屋内使用時は3cm以上、屋外使用時は5cm以上離れている

### ⑤ ホイール、スポーク、ハンドリム

- ホイールやハンドリムに変形や傷がない
- ホイールやフレームとの取り付け部にガタつきがない
- スポークが折れていない



### ⑥ キャスタ

- キャスタのネジがゆるんでいない
- キャスタに傷がない
- キャスタフォークに亀裂がない

### ⑦ 電源スイッチ

- 電源スイッチが車いすにしっかり固定されている
- 電源スイッチが扱いやすい位置にある

### ⑧ モード切替スイッチ

- モード切替スイッチが車いすにしっかり固定されている
- モード切替スイッチが扱いやすい位置にある

### ⑨ 全体の確認

- ガタつきがない
- まっすぐに走る
- ワイヤーが部品などに引っかかっていない

## 2. 服装のチェック

服装が車いすの走行に適したものかどうかを確認します。

**⚠ 警告** 下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。  
このような服装で運転すると使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。

丈の長いマフラー



裾の広いズボン・スカート



素足または下駄・サンダル履き、  
足にフィットしていない履き物など



# 6 電動部の操作方法

## 1. 車いすを動かす

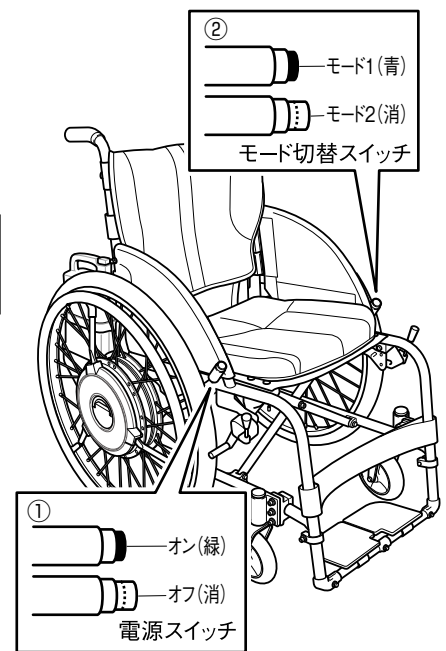
- ① 電源スイッチを入れます。  
電源を入れると、「ピッ」というブザー音とともに電源スイッチとモード切替スイッチの先端ランプがバッテリーの残量に応じて点滅し（2回繰り返す）緑色に点灯します。
- ② モード切替スイッチの先端ランプが、青色に点灯または消灯のどちらかになっているかを確認します。

モード1(青色に点灯)：あらかじめ設定した1つめの設定  
モード2(消灯)：あらかじめ設定した2つめの設定

※モードの設定はスマートチューンにより変更することができます

- ③ 駐車ブレーキを解除してください。
- ④ ハンドリムを操作すると走り出します。最初はゆっくりとハンドリムを動かして、車いすが正しく動くことを確認してください。

- △注意**
- ハンドリムに力が加わったまま動かそうとするとブザーが鳴ります。ハンドリムから手を放し、電源を切って再度電源を入れ直してください。
  - 積載荷重が大きすぎると走行中にブザーが鳴り続けます。



## 2. オートパワーオフ機能

電源を入れた状態でハンドリムを5分間操作しないと、自動的に電源が切れます。続けて走行する場合は一度電源スイッチを切って、1秒以上経過してから再度電源を入れなおしてください。  
※使用開始時の設定です。スマートチューンによって変更することができます

## 3. 車いすから降りる

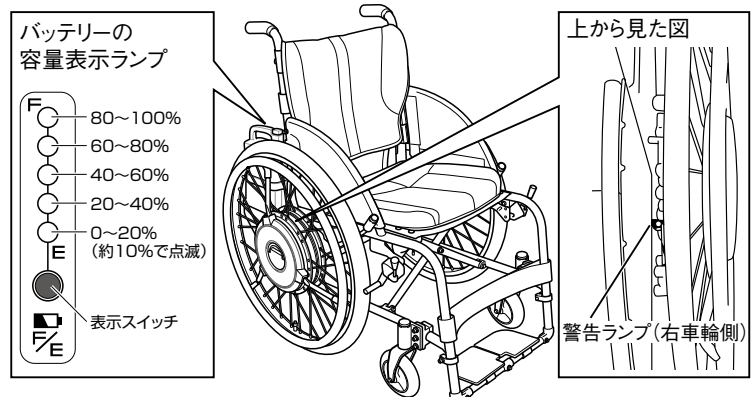
- ① 車いすを必ず平坦な場所に停めてください。
- ② 電源スイッチを切ります。
- ③ 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。

- △警告** フットサポート（足置き）に立ったり、直接体重をかけないでください。  
フットサポートが破損したり、バランスをくずし、倒れるおそれがあります。

## 4. バッテリーの残量確認

バッテリーの表示スイッチを押してバッテリー容量表示ランプや警告ランプでバッテリー残量を確認することができます。

- △警告**
- バッテリー残量が約10%以下になると、警告ランプが点滅し、ブザーが『ピピピピ』と短く4回鳴ります。
  - バッテリーがなくなると警告ランプが点灯し、ブザーが『ピー』と長く1回鳴り、電動アシストが効かなくなります。



# 7 走行診断チェック

## 1. 使用者のかたへ

使用者の身体状況によっては、ひとりで走行することが危険な場合があります。  
この診断チェックを利用していただき、ひとりで走行できるかどうか、判断の目安にしてください。

### チェック 1



(1) ハンドリムによる走行ができますか？



(2) 周囲の状況を正しく理解し走行すべきか気にかけることができますか？

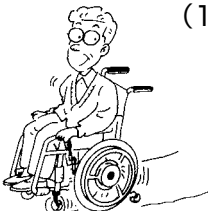
両方とも  
できる

いずれかに  
不安がある

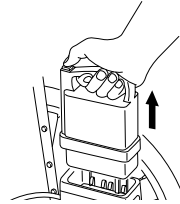


介助者に介助操作を  
してもらってください。

### チェック 2



(1) 駐車ブレーキや電源スイッチの操作ができますか？



(2) 車いすの乗り降りやバッテリー交換ができますか？

両方とも  
できる

いずれかに  
不安がある



介助者に同行して  
もらってください。

ひとりで走行することは可能です。安全のために慎重な走行を心掛けてください。P19「8. 外出時の注意点」にあるような場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して走行してください。

## 2. 介助者のかたへ

下記診断チェックを利用していただき、介助操作ができるかどうかの判断の目安にしてください。

### 診断チェック

下記3項目のうち、いずれかに不安があるときには、介助操作はしないでください。

- (1) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？
- (2) 車いすの乗り降り補助やバッテリー交換ができますか？
- (3) 手動車いすで介助の操作ができますか？



# 8 基本操作の練習

## 基本操作 1

① 平坦な広い場所で基本操作の練習を行ってください。

- ① はじめに電源を切った状態で手動車いすの使い方を覚えましょう。
  - ・手動走行で動ける範囲を確認してください。
- ② 電源スイッチをオンにして、電動アシスト操作の感覚を覚えましょう。
  - ・ハンドリムはゆっくりと静かに動かしましょう。
  - ・動き始めはキャストが浮き上がりやすいので注意しましょう。
- ③ 電動アシストの操作感覚を覚えたら以下のような走り方をしてみましょう。

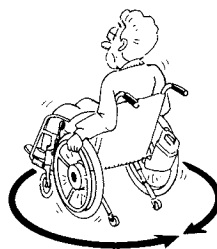


### ■ 前進・停止



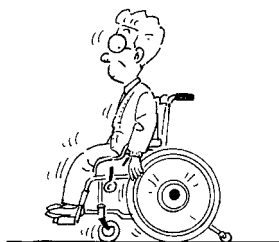
### ■ 旋回・S字走行

- ・その場で旋回できるようになりましょう。
- ・違う大きさのSの字を描いてみましょう。



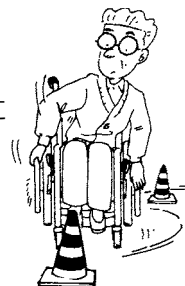
### ■ 後進

- ・後進時の特性を理解しましょう。
- ・後ろの安全を確認しましょう。



### ■ 障害物回避

- ・回避動作ができるようになりましょう。
- ・障害物にぶつからないように停止してみましょう。



② アシスト力の違うモード1とモード2の設定で同じ練習を行ってください。

## 基本操作 2

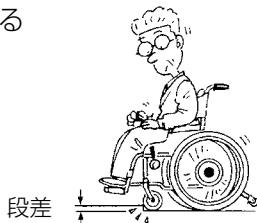
実際に車いすを使う場所で練習を行ってください。

### ■ 歩道

- ・歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。
- ・路面に応じた走行を覚えましょう。

### ■ 段差の上り下り

- ・転倒防止バーが出ていることを確認しましょう。
- ・上り下りの要領と段差の限界を覚えましょう。
- ・段差に対して直角に通過できるように進みましょう。
- ・手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。



### ■ 坂道

- ・上り下りの感触を覚えましょう。
- ・上り坂での再発進は慎重にしましょう。
- ・上り坂ではキャストが浮き上がりやすいので注意しましょう。
- ・下り坂はすぐに停止できる速度で下りましょう。



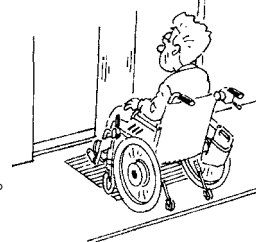
### ■ 横断歩道や斜面の横断

- ・余裕をもって横断歩道を渡りましょう。
- ・車道／歩道の段差に注意しましょう。
- ・斜面やでこぼこ道で片側操作の練習をしましょう。

### ⚠ 危険

日常、車いすをよく使う場所の路面を必ず確認してください。

大きな段差、急な坂道、荒れた路面など危険な場所を通らないルートを走行するようにしてください。



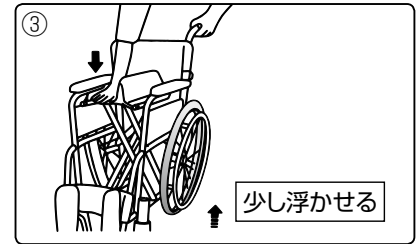


# 9 使用方法

## 1. 開きかた

- ① 電源を切り駐車ブレーキを左右の駆動輪にかけておきます。
- ② グリップ(押し手)を持って軽く左右に開きます。
- ③ 片側の駆動輪を少し浮かせて、浮かせていない側のシートパイブの上を、手の平で押して開きます。

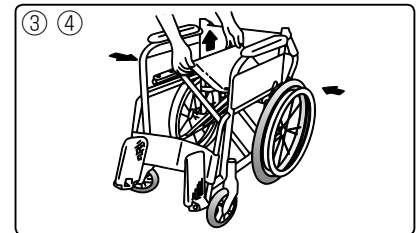
**△ 注意** シートパイブを握って開くと手が挟まれケガをするおそれがあります。



## 2. たたみかた

- ① 電源を切り駐車ブレーキを左右の駆動輪にかけておきます。
- ② フットサポート(足置き)を両側とも上げます。
- ③ シート(座面)を持ち上げ、ゆっくりと左右を寄せます。
- ④ 両側からアームサポート(肘置き)を押さえてたたみます。

**△ 注意** 本製品をたたむときは、アームサポート(肘置き)を握らないでください。アームサポート(肘置き)が外れ危険です。



## 3. フット・レッグサポートの使いかた

### 取り外すとき

フット・レッグサポートを垂直に持ち上げるだけで、どの位置からも外れます。

### 取り付けるとき

キャストの上部にある穴にフット・レッグサポートを差し込みます。

### スイングイン&アウトするとき

- ① フット・レッグサポートを垂直に持ち上げます。
- ② 内側または外側に回転させます。

### 【エレベータリングフット・レッグサポート(オプション)】

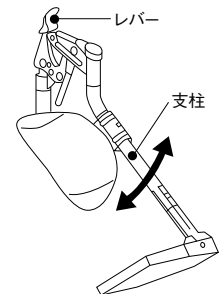
身体状況に合わせて、適切な角度に調整してください。

#### 角度をつける(上方に動かす)とき

エレベータリングフット・レッグサポートの支柱を引き上げます。

#### 角度を戻す(下方に動かす)とき

エレベータリングフット・レッグサポートの支柱にあるレバーを手前に引きながら、フット・レッグサポートを下方方向に押し下げます。



- △ 警告**
- フット・レッグサポートの操作時は、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
  - 走行する前は、エレベータリングフット・レッグサポートの支柱が確実にハマっていることをお確かめください。
  - 介助者が押して移動するときには、必ずフットサポート(足置き)を取り付けた状態でお使いください。足がキャストにあたり危険です。
  - フット・レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。バランスを崩して倒れる可能性があり、大変危険です。

## 4. アームサポート(肘置き)の使いかた

### 取り外すとき

アームサポート(肘置き)を引き上げてください。

### 取り付けるとき

アームサポートアタッチメント(肘置き差込口)に、アームサポート(肘置き)が固定されるまで差し込んでください。

- △ 警告**
- アームサポート(肘置き)の取り付け・取り外しは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。車いすが勝手に動き出して大変危険です。
  - 走行する前に、必ずアームサポート(肘置き)が取り付けられているか確認してください。
  - アームサポート(肘置き)を持って車いすを持ち上げないでください。アームサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。

## 5. 転倒防止バー

### 使用しないとき

介助操作で段差を乗り越えるときは、下記の方法で転倒防止バーのロックを解除してください。車いす前輪のキャストを浮かせて段差を乗り越えることができます。

段差を乗り越えた後は、ただちに下記「使用するとき」の方法で転倒防止バーを下ろしてください。

- ① 転倒防止バーに付いている黒いパイプを手前に引いてください。
- ② 転倒防止バーを上方に上げてロックを解除してください。

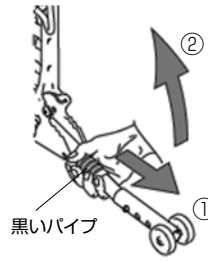


写真1

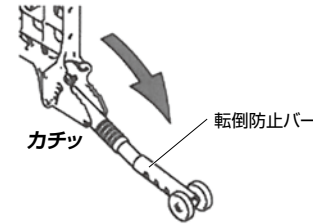


### 警告

左右の転倒防止バーは、バッテリーなどの電装部に干渉するため最後までしっかり上げることができません。(写真1) 転倒防止バーを使用しないまま走行しないでください。後方に倒れやすくなり転倒してケガをするおそれがあります。段差を乗り越えた後は、ただちに下記「使用するとき」の方法で転倒防止バーを下ろしてください。

### 使用するとき

- ① 転倒防止バーをカチッと音がするまで地面に向かって下ろしてください。
- ② 転倒防止バーを上方に上げて、固定されているかどうか確認してください。



## 6. 駐車ブレーキの掛けかた

ブレーキレバーを前方に倒すとロックし、レバーを後方に引くと解除されます。

### 注意

- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキを掛けて車いすが固定されていることを確認してください。
- 傾斜地や平坦でないところでは駐車しないください。  
傾斜地やすべりやすい床面では駐車ブレーキを掛けても車いすが動く場合があり大変危険です。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。  
必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。  
足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。

## 7. 移乗のしかた

移乗動作の準備をしてください。

- ① 電源を切り駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② 乗り移る側のアームサポート(肘置き)を取り外し、フット・レッグサポートは取り外すかフットサポート(足置き)を上げてスイングアウトしてください。

使用者の身体状況によって、移乗方法が異なります。下記の方法を参考に正しい移乗方法で行ってください。

### 1人で車いすに乗り移るとき

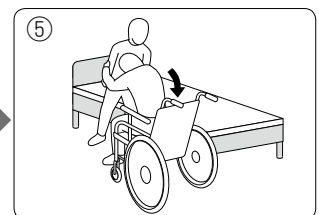
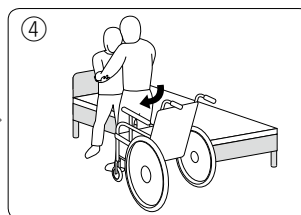
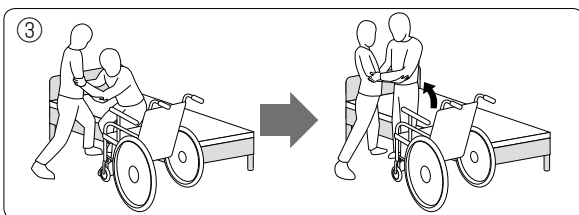
※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ④ アームサポート(肘置き)、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑤ フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。

### 介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 介助者が相手の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせます。
- ④ 移乗先の車いすへおしりを向けます。
- ⑤ 車いすのシート(座面)の奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポート(肘置き)、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑦ フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。



### 警告

- 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
- 危険ですのでフットサポート(足置き)の上に乗らないでください。

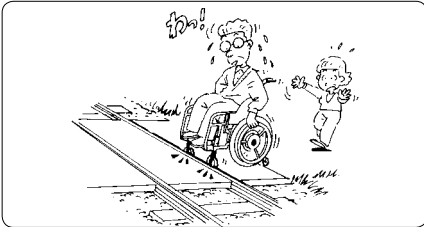
### 注意

アームサポート(肘置き)やフット・レッグサポートに戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

## 8. 外出時の注意点

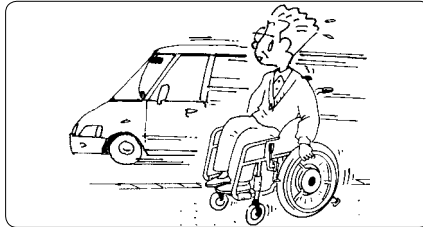
- お使いいただく環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。次のような場合は、介助者が同行してください。単独走行では、ケガをするおそれがあります。
- また、日常よく使う場所に次のような危険があるかどうかを確認して、もし危険がある場合には、このような箇所を通らないルートを選ぶようにしてください。
- 緊急時は、介助者が安全な場所に移動させてください。

### 踏切や路面電車の線路を渡るとき



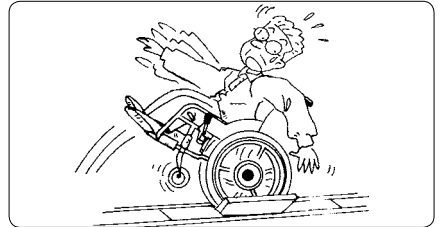
線路のすき間にキャストがはまるおそれがあります。

### 柵がない歩道



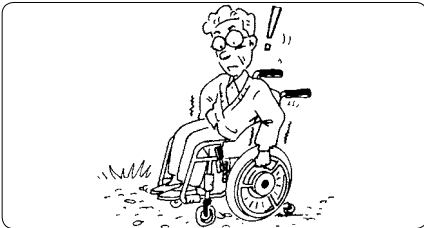
車道側に落ちるおそれがあります。

### 側溝や下水溝のフタ



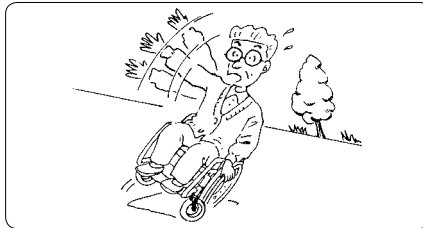
すき間がある場合、タイヤが落ちるおそれがあります。

### 砂利道や泥道



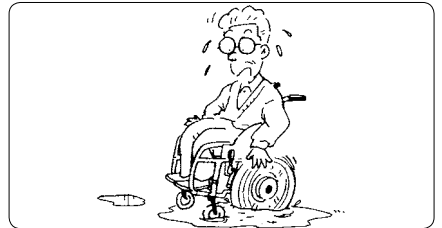
タイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。

### 車体が左右に大きく傾く場所



横に倒れるおそれがあります。

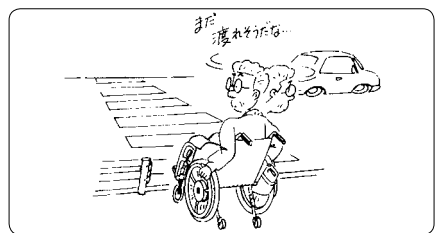
### 雪・水溜りのある道路



スリップしてコントロールができなくなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。駆動部が水に浸かると停止するおそれがあります。

### 不慣れな道路の横断

- 特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
- 信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。このような場所では、信号が次の青になるまで待って、余裕を持って渡るようにしてください。
- 狭い車道を走ることは大変危険です。できるだけ安全な道を選んでください。
- バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。横断前にバッテリー残量を確認してください。

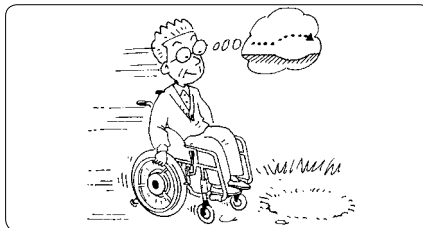


### 夜間の走行



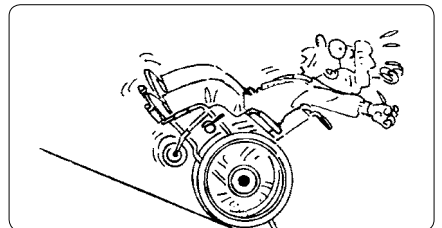
路面状態がわからず転倒したり、周りの人や車から認識されずに人や車と衝突するおそれがあります。

### 大きなくぼみを越えるとき



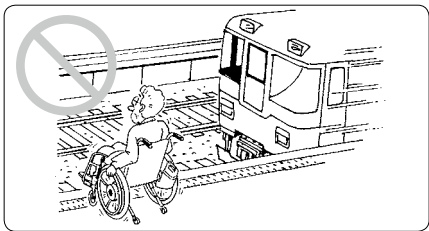
道路にくぼみがある場合は回避してください。そのまま走行すると転倒するおそれがあります。

### 不慣れな坂道の上り下り



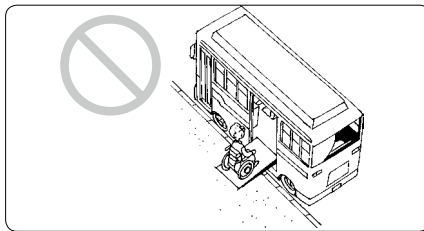
初めて上り下りする坂では、介助者が同行し安全を確認してください。

### 駅のプラットフォーム



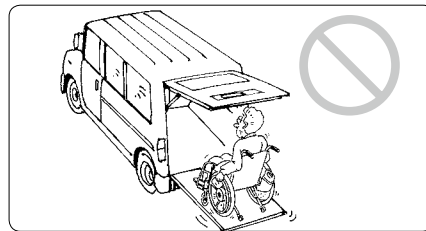
線路に転落するおそれがあります。

### バス・電車の乗降



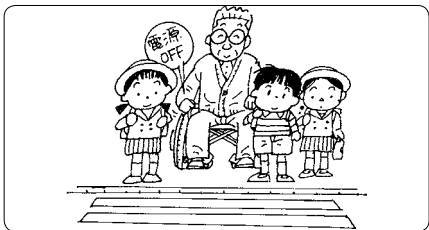
降りたときは必ず転倒防止バーが出ていることを確認してください。

### リフト付車両への乗降



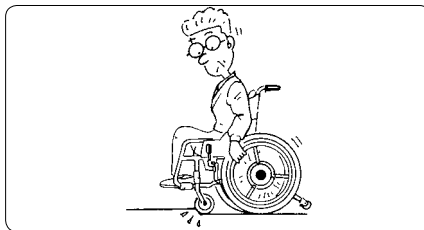
必ず介助者が同行し安全を確認してください。

### 混雑した場所での移乗



人や物にぶつかるおそれがあります。まわりの人の手や腕が操作レバーに接触して不意に発進するおそれがあります。

### 大きな段差や障害物の上り下り



初めて上り下りする段差は介助者が同行し、安全を確認してください。

### 坂道や段差の下り



前進で下りると乗っている使用者が前のめりになり車いすから落ちるおそれがあります。

## 9. 航空機に乗るとき

航空機に乗ることが決まったら、電動車いすを使用することを事前に航空会社に連絡し、航空会社の指示に従ってください。

このときにご使用の車いすについて詳しく航空会社に知らせてください。

特に使用するバッテリーについては、以下の仕様を参照してください。

#### ■ リチウムイオンバッテリー (ラベルにLi-ion 00と表示)

型式 ESB1 電圧 25V  
容量 11.2Ah (280Wh)  
種類 マイコン内蔵乾式密閉型 (ドライタイプ)

#### ■ ニッケル水素バッテリー (ラベルにNi-MHと表示)

型式 JWB2 電圧 24V  
容量 6.7Ah  
種類 マイコン内蔵乾式密閉型 (ドライタイプ)

バッテリー (特にリチウムイオンバッテリー) は、航空機への機内持込・荷物としての預け入れが制限されることがあります。必ず事前に航空会社へ相談してください。

※ 旅行などの一時的な場合も含め、本製品を海外で使用する場合は、サービスサポートの対象外とさせていただきます



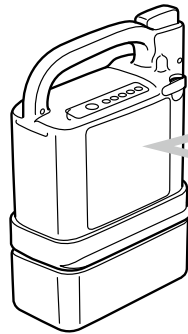
# 10 バッテリーの使用法

## ⚠ 警告

バッテリーや充電器はまちがった取り扱いをすると、発熱、破裂、感電、ケガの原因になります。

## 1. バッテリーの種類

本製品に使うことができるバッテリーにはリチウムイオンバッテリーとニッケル水素バッテリーの2種類があります。いずれも、マイコン内蔵乾式密閉型（ドライタイプ）のバッテリーですが、それぞれのバッテリーで特性や充電の方法が異なります。下記を確認してください。



バッテリーのラベルを確認してください。リチウムイオンバッテリーのラベルには『Li-ion 00』と表示されています。ニッケル水素バッテリーのラベルには『Ni-MH』と表示されています。

リチウムイオンバッテリーとニッケル水素バッテリーには、それぞれ専用の充電器が付属しています。

## 2. バッテリーの特長

### リチウムイオンバッテリー・ニッケル水素バッテリー共通

- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。（マイコン内蔵型）これは充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムです。
- 水銀・カドミウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。

### リチウムイオンバッテリー

- 1回の充電で40km走行が可能な大容量バッテリーです。（容量 25V × 11.2Ah）ニッケル水素バッテリーと比べて大きな電気容量です。
- メモリー効果が起きにくいいため、リフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電をすることが可能です。

### ニッケル水素バッテリー

- コンパクトながら20km走行が可能なバッテリーです。（容量 24V × 6.7Ah）
- 軽量で持ち運びやすく、充電器に差しやすいバッテリーです。

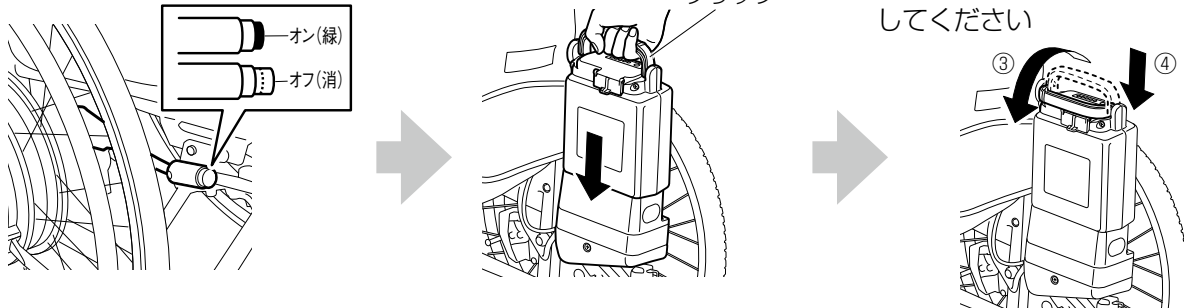
### 3. バッテリーの脱着

**△注意** 電源を入れた状態でバッテリーを抜き差ししないでください。接点部の接触不良の原因となります。

#### リチウムイオンバッテリー

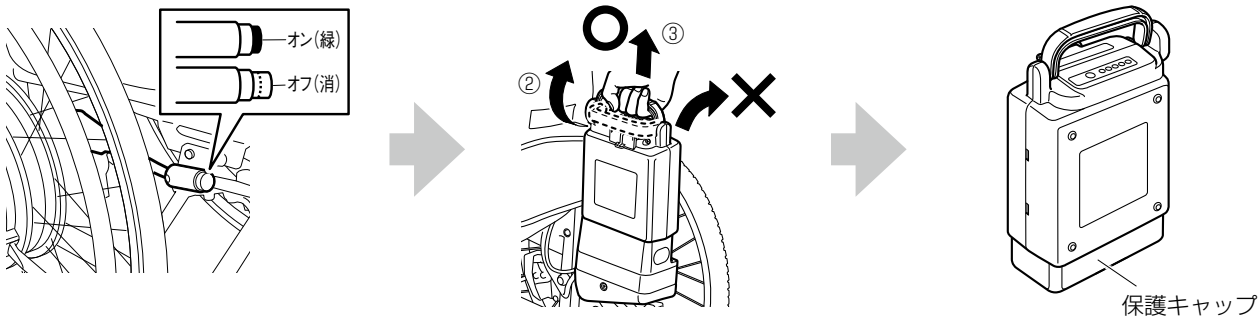
##### ● 取り付けかた

- ① 電源スイッチをオフにします。
- ② バッテリーを差し込みます。
- ③ グリップを横に倒します。
- ④ バッテリーをしっかり押し込みます。  
※グリップで指を挟まないよう注意してください



##### ● 取り外しかた

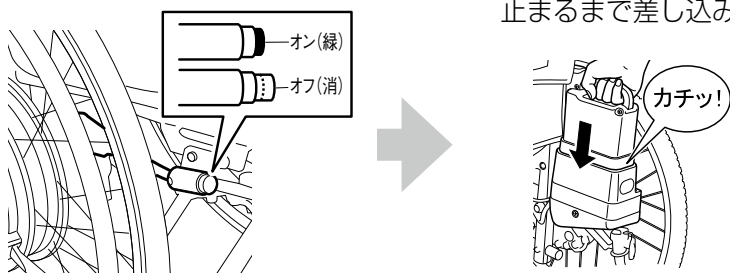
- ① 電源スイッチをオフにします。
- ② グリップを真つすぐに立てます。
- ③ バッテリーを上に向かって引き抜きます。  
※斜めに引き抜かないでください
- ④ バッテリーに保護キャップをつけて保管します。



#### ニッケル水素バッテリー

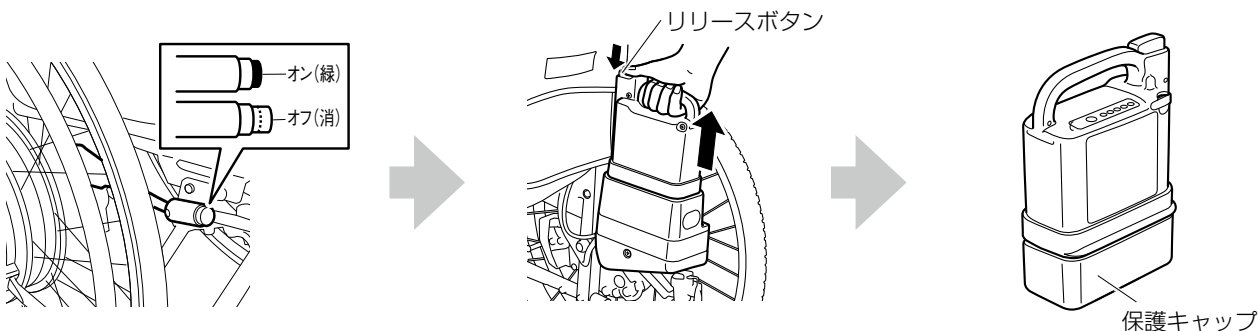
##### ● 取り付けかた

- ① 電源スイッチをオフにします。
- ② バッテリーを「カチッ」と止まるまで差し込みます。



##### ● 取り外しかた

- ① 電源スイッチをオフにします。
- ② リリースボタンを押しながら上にまっすぐ引き抜きます。
- ③ バッテリーに保護キャップをつけて保管します。



## 4. バッテリーの温度環境

### リチウムイオンバッテリー・ニッケル水素バッテリー共通

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。  
バッテリーの性能を活かして使うために、次のような条件で使うことをおすすめします。

車いすに取り付けて使うとき	：気温が0℃から35℃の範囲
車いすから取り外して保管しておくとき	：気温が10℃から25℃の範囲
充電するとき	：気温が10℃から25℃の範囲

- ・充電中バッテリーの保護のため、バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときには充電を始めず待機状態になります。このとき、充電ランプ（緑）は点滅しています。待機状態のときにバッテリーの温度が適温になると充電ランプは点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。（待機時間の長さは条件により異なります）
- ・充電中にバッテリー温度が上昇し45℃（ニッケル水素バッテリーは50℃）を超えるとバッテリーの保護のために、充電器の電源が切れます。この場合、充電は完了していませんのでバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。新品のバッテリーや走行直後のバッテリーは、充電するときにバッテリー温度が上昇しやすいため、充電が途中で終わってしまう現象が起きやすくなります。

### リチウムイオンバッテリー

- ・走行中バッテリーの内部温度が高くなりすぎたり、低くなりすぎるとブザー音でお知らせします。バッテリーの内部温度が0℃以下または45℃以上の状態が5秒間続くとブザー音（ピッピッピッピの連続音）でお知らせします。ブザーが鳴ったときには、すみやかに推奨使用温度範囲内の環境に戻して使用してください。
- ※ 車いすで坂道を下るときには、駆動モーターが通常とは逆に発電を行って、バッテリーを充電するため、バッテリーの温度が0℃以下または45℃以上の状態で坂道を下ると、バッテリー保護の理由で車いすが下り坂で動かなくなることがあります。停止する前にピーピーピーピー（長音5回）とブザー音が鳴り、10秒後にピー（長音）とブザー音が鳴って止まります。

### ニッケル水素バッテリー

バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときにリフレッシュ充電をすると、残っていた電気の放電が終わって通常の充電が始まるときに、待機状態になることがあります。

**△ 警告** 充電中に充電器の温度が上がると、冷却ファンが自動的に作動します。充電中は吸気口、排気口をふさがないでください。

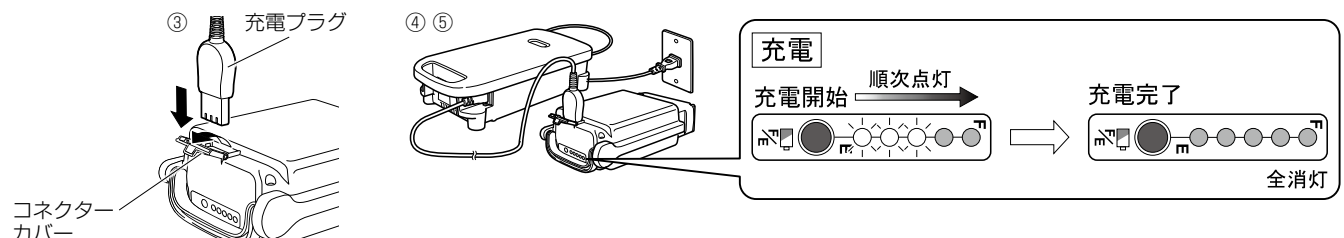
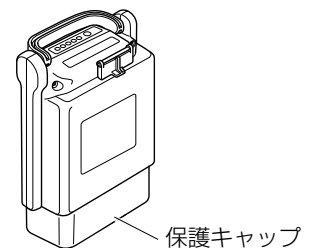
## 5. バッテリーの充電方法

### リチウムイオンバッテリー

バッテリーを取り外して充電する方法（卓上充電）とバッテリーを車いすに装着したまま充電する方法（車載充電）の二つの方法があります。

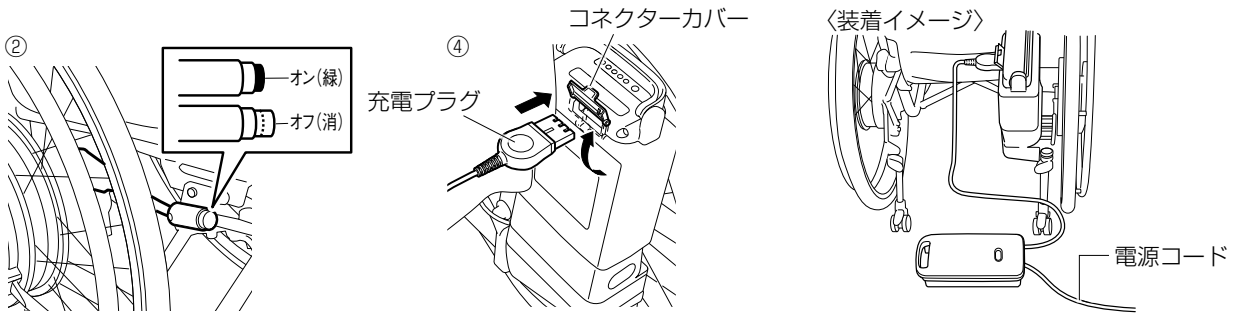
#### ● バッテリーを取り外して充電する場合（卓上充電）

- ① バッテリーに保護キャップがついていることを確認します。ついていない場合には、必ず保護キャップをつけてください。
- ② 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ③ バッテリーを寝かせた状態にしてコネクターカバーをあげ、充電プラグをバッテリーの充電用コネクターに差し込みます。
- ④ 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認します。充電ランプが緑色に点滅した場合は充電待機中です。上記「4. バッテリーの温度環境」を参照してください。
- ⑤ 充電中はバッテリーの充電状況を充電ランプで確認することができます。充電が終わると充電ランプが消えます。バッテリーが空の状態から充電を始めた場合、満充電までの時間は4.5時間前後です。
- ⑥ 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクターカバーをしっかりしめます。

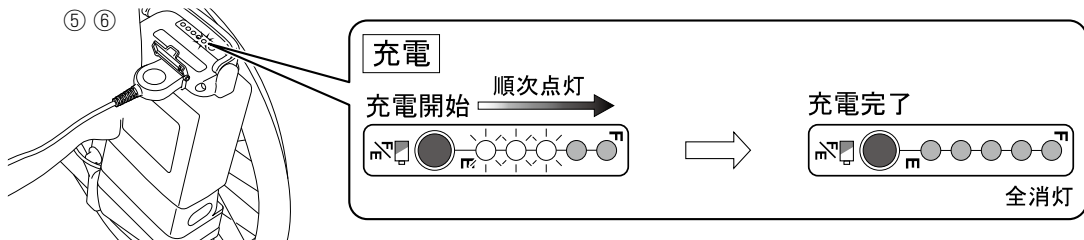


● バッテリーを車いすに装着したまま充電する場合（車載充電）

- ① 充電の準備をします。室内の平坦な場所に車いすを置き、駐車ブレーキをかけます。
- ② 車いすの電源スイッチを切ります。※ 危険防止のために車載充電中はスイッチを操作しても電源は入りません
- ③ 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ④ 充電器の充電プラグをバッテリーの充電用コネクタに差し込みます。

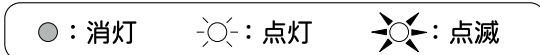
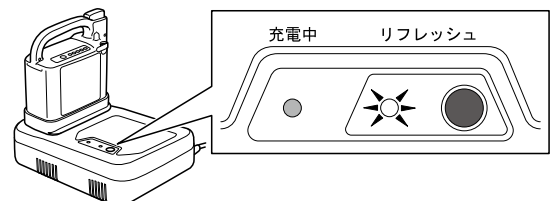
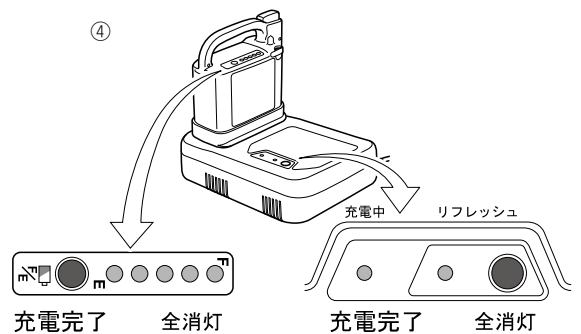
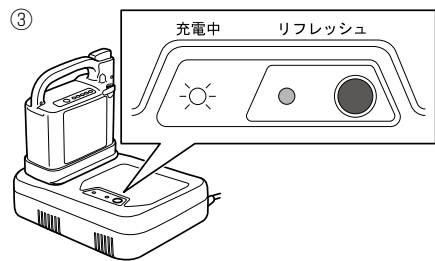
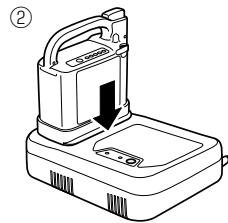


- ⑤ 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認します。
- ⑥ 充電中はバッテリーの充電状況を表示ランプで確認することができます。充電が終わると表示ランプが消えます。バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、充電完了までの時間は4.5時間前後です。
- ⑦ 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクターカバーをしっかりと締めます。



ニッケル水素バッテリー

- ① 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ② 充電器にバッテリーを右図のように差し込みます。
- ③ 充電器の充電ランプ（緑）が点灯し、充電が始まります。バッテリーの容量表示ランプが点灯し、充電量によって点灯しているランプの数が増えていきます。
  - ※ バッテリーが空の状態から充電を始めた場合、満充電までにかかる時間は、通常2.5～3時間です。
  - 高い温度の場所で充電するときや、新品のバッテリーを充電するときには、さらに時間がかかる場合があります
- ④ 充電が終わったことを確認します。充電が完了するとバッテリーの容量表示ランプや充電器の充電ランプ（緑）が消えます。
- ⑤ 電源プラグをコンセントから抜きバッテリーを充電器から抜きます。バッテリーをそのまま保管する場合は、保護キャップをつけて保管してください。





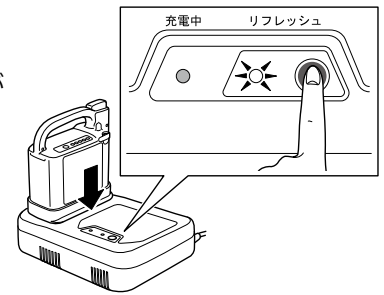
● リフレッシュ充電のしかた

ニッケル水素バッテリーはメモリー効果の解消と予防のためのリフレッシュ充電を行う必要があります。バッテリーを充電器にセットしたときにリフレッシュランプが点滅した場合にはリフレッシュスイッチを押してリフレッシュ充電を行ってください。

● メモリー効果とリフレッシュ充電

ニッケル水素バッテリーは、少しだけ使ってすぐに充電しなおすような使いかたを繰り返すと、実際に使える容量が減少する現象（メモリー効果）が発生します。

メモリー効果は、リフレッシュ充電（バッテリーに残っている電気を全て放電してから充電しなおすこと）で予防および解消ができます。リフレッシュ充電が必要になると、バッテリーの中のマイコンが充電器に情報を送り、充電器のリフレッシュランプを点滅させます。充電しようとしてバッテリーを充電器に差し込んだときに、充電器のリフレッシュランプが点滅した場合は、リフレッシュボタンを押してリフレッシュ充電を実施してください。リフレッシュ充電には、通常の充電に比べて長い時間が必要です。



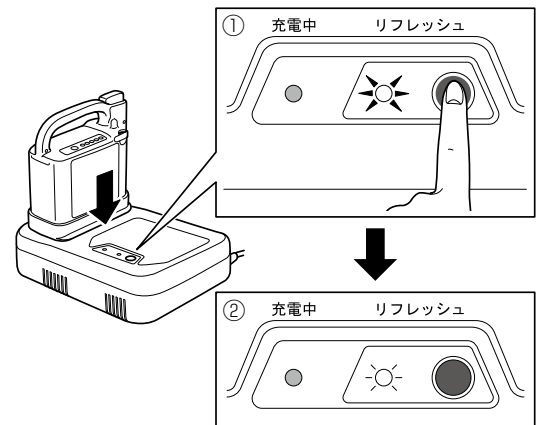
① リフレッシュランプ（橙）が点滅中にリフレッシュスイッチを押します。

※ リフレッシュランプ（橙）は、リフレッシュ充電が必要な場合にだけ点滅します

② リフレッシュランプ（橙）が点滅から点灯にかわってリフレッシュ充電が始まります。

リフレッシュ充電中、バッテリーに残っていた電気を全て放電し終わるとリフレッシュランプが消え、充電ランプが点灯し、通常充電が始まります。リフレッシュ充電開始から通常充電完了までにかかる時間は、3～15時間です。

※ 充電回数が、約20～30回に1回の割合でリフレッシュランプが点滅します



●：消灯    ●：点灯    ●：点滅

● リフレッシュ充電中にバッテリー温度が上がり、充電ランプ（緑）が点滅して充電が待機になることがあります。

バッテリーの温度が適温になると、充電ランプが点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。

● リフレッシュスイッチを押し損ねた場合

バッテリーを抜いてもう一度差し込むとリフレッシュ充電の合図が出て、リフレッシュ充電をすることができます。

● リフレッシュランプ（橙）が点滅した状態でリフレッシュスイッチを押さなかった場合

約1分間経過するとリフレッシュランプの点滅が消え、充電ランプが点灯し、通常充電が始まります。この場合は次の充電のときにふたたびリフレッシュランプが点滅します。

**ポイント** 上手な充電のしかた

- バッテリーは、車いすを使わない時間帯に充電することをおすすめします。
- リフレッシュ充電は、バッテリーに残った電気を一度放電した後に充電するため、バッテリー残量が多い場合に実施すると時間がかかります。バッテリーをできるだけ使い切った状態でリフレッシュ充電をすることをおすすめします。

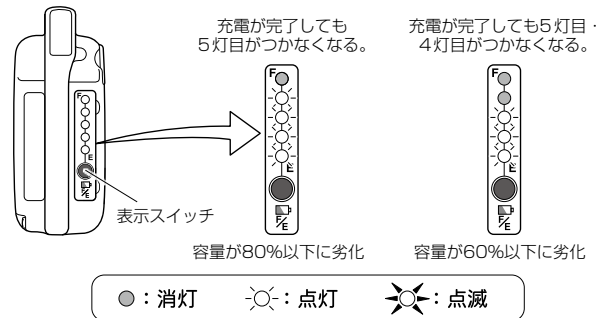
## 6. 充電ランプの表示と内容

### リチウムイオンバッテリー・ニッケル水素バッテリー共通

#### ● バッテリーの充電表示

容量表示ランプが1つ点滅（残量警告）になった場合は、ただちに充電してください。  
充電が終わったあとで、バッテリーの表示スイッチを押して充電できた量を確認することができます。  
充電完了後、全てのランプがつかないときは、以下の原因が考えられます。

- 充電中にバッテリーの温度が上がりすぎて保護のために充電が中断した。
- ニッケル水素バッテリーの場合、劣化が進んで容量が減少してきている。

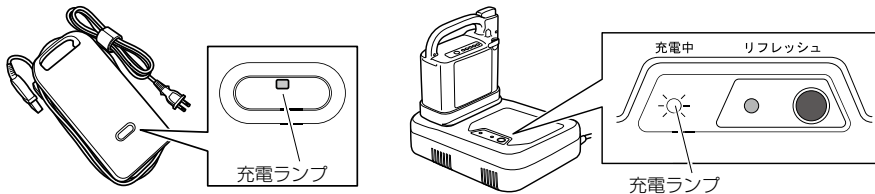


#### ● バッテリー用充電器の充電表示

充電ランプが緑色の点灯のときは、通常充電中です。充電が終わると充電ランプが消えます。  
バッテリー温度が充電可能範囲（0℃～40℃）外の場合は、待機状態になって充電ランプが緑色に点滅します。P23「4.バッテリーの温度環境」を参照してください。

[リチウムイオンバッテリー]

[ニッケル水素バッテリー]



### リチウムイオンバッテリー

#### ● バッテリー用充電器の充電ランプが赤色の点灯または点滅

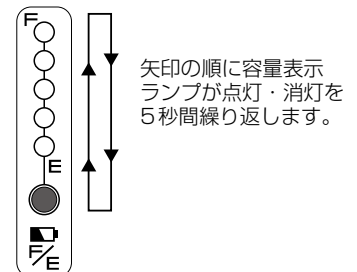
充電器またはバッテリーの異常を検出したため充電できません。  
いったん充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。再び充電ランプが赤色に点灯または点滅する場合は機器の故障が考えられます。充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、当社までご連絡ください。

#### ● バッテリーの容量表示ランプが点灯・消灯を5秒間繰り返す

バッテリーの寿命で充電できなくなる約3ヶ月前、または積算充電容量が7800Ahに達した時点から容量表示ランプでお知らせします。  
充電完了時、充電プラグを抜いた後に右図のように容量表示ランプが点灯・消灯します。

完全に寿命に達した場合は、充電時充電器のランプが点灯せず、バッテリーの容量表示ランプが点灯しなくなり充電できません。

※充電完了時の満充電表示は、劣化状態でも5つ全てのランプが点灯します



**△注意** ● バッテリーは、工場出荷後の最初の充電日を使用開始日と認識します。バッテリー底面の製造年月日とは一致しません。

● 寿命は最初の充電開始より8年または、積算充電容量8000Ahですが積算充電容量が8000Ahに達した場合には、使用開始日から8年が経過していても使用できなくなります。

※ 積算充電容量8000Ahは、残量ゼロから満充電したときの約700回分です

### ニッケル水素バッテリー

#### ● バッテリー用充電器のリフレッシュランプ（橙）が点滅

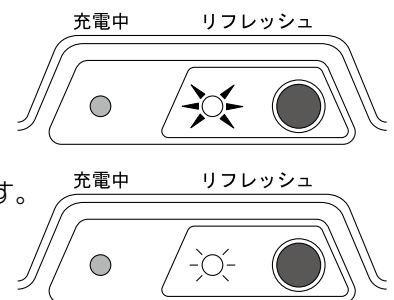
リフレッシュ充電の開始要求中です。  
リフレッシュランプが点滅している間にリフレッシュボタンを押して、リフレッシュ充電を開始してください。  
リフレッシュボタンを押さなかった場合、約1分後に通常充電がはじまります。

#### ● バッテリー用充電器のリフレッシュランプ（橙）が点灯

リフレッシュ充電で、バッテリーに残っている電気を放電しています。  
放電が完了すると通常充電がはじまります。

#### ● 充電が完了してもバッテリーの表示ランプが2つのみ点灯

バッテリーの寿命です。当社までご連絡ください。



● : 消灯    ☉ : 点灯    ☉ (with a dot) : 点滅

※劣化によって容量が減少する度合いは、使いかたによって異なります。一般的な使いかたの場合、充放電回数300回で新品時容量の約60%に減少します

# 11 保守・点検

## 1. 空気の入れ方

駆動輪に空気を入れるときは、先端キャップを外してしっかりと空気入れをバルブに接続してください。空気を入れ終えたら忘れずに先端キャップを締めてください。

### △ 注意

- 空気圧の調整作業は駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- タイヤチューブ内には「パンク防止剤」が注入されているため、バルブを高い位置にしてから空気を入れてください。「パンク防止剤」が飛びでてくる可能性があります。
- 空気圧のめやすは、タイヤを手で押すとやや硬く感じる程度に空気を入れてください。(軟式野球ボール程度の硬さ)

## 2. 日常のお手入れ

- 使用する前には必ずP13「5 使用前の準備と点検」を確認し、常に安全な状態で使用してください。
- 車いすは湿気に弱いため、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- 座面シートが汚れたときには、強く絞った布などですぐにふき取ってください。
- ひどい汚れの場合は、薄めた中性洗剤とブラシを使用して汚れを落としてから常圧の水道水を清掃した場所にやさしくかけてください。作業が終了後ただちに雑巾などで水分をふき取って乾燥させてください。

### △ 注意

- バッテリーを装着したまま水洗いをしないでください。
- バッテリーシート部分に直接水をかけないでください。
- 高圧洗浄機やスチーム洗浄機で車いすを洗浄しないでください。

## 3. 保管方法

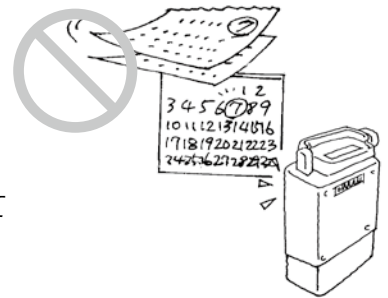
- 車いすは直射日光が当たる所、雨に濡れる所、湿気の多い所を避けて保管してください。
- バッテリーは湿気の多い所や、高温になる所を避け、必ず保護キャップを取り付けて保管してください。

### △ 注意

車いすを使用しないときは、バッテリーを必ず外し、駐車ブレーキを掛けておいてください。子どもや、操作を知らない人が操作すると危険です。

## バッテリーの長期保管

- リチウムイオンバッテリーは容量表示ランプが3つ点灯するように充電してから保管してください。  
使用しないで3ヶ月以上保管する場合は、3ヶ月おきに容量表示ランプが3つ点灯になっているかを確認して、2つ点灯以下のときには3つ点灯になるまで充電してください。
- ニッケル水素バッテリーはバッテリーを満充電(容量いっぱいまで充電)して保管してください。  
使用しないで3ヶ月以上保管をされる場合は、3ヶ月おきに満充電まで充電をしてください。



# 12 故障かな？と思ったら

故障ではない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。


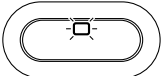
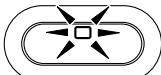
## 走行時

こんなとき	警告ランプ	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行中に止まってしまふ、走り出さない	—	ピーツ	バッテリーが切れていませんか	バッテリーを充電してください。 バッテリーに問題がない場合は当社までご連絡ください
			リチウムイオンバッテリーを使っていて外気温が氷点下の時や夏の炎天下で走行していませんか。また外気温が氷点下になる場所や車内など高温になる場所で保管していませんか	バッテリーが適温になるまで待機してください。またはクラッチレバーを手動側に切り替えて手動走行をしてください
	—	—	バッテリーが正しく差し込まれていますか	バッテリーを正しく差し込んでください
	3回点滅	ピーツ	ハンドリムに力を加えたまま電源をオンにしていますか	ハンドリムから手を離し電源を切って再度電源を入れてからやり直してください。直らない場合は当社までご連絡ください
	—	—	オートパワーオフで自動的に電源が切れたままになっていますか	電源をオフにしてから入れ直してください
操縦できない	—	—	無理な走行をした後でモーターがオーバーヒートしていませんか	電源を切ってしばらく休んでから走行してください
	—	—	車いすのブレーキが掛かっていますか	ブレーキを解除してください
	—	ピーツの繰り返し	大きな負荷が掛かっていますか	積載荷重や登坂角度を確認してください
点滅		ピーツの繰り返し	大きな負荷が掛かり、オーバーヒートしていませんか	負荷が低くなるようにしてオーバーヒートしないようにしてください
	外気温が下がっていませんか		温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります	
パワー不足	—	—	バッテリーが劣化していませんか	[リチウムイオンバッテリーの場合] 新しいバッテリーに交換する必要があります。当社までご連絡ください [ニッケル水素バッテリーの場合] リフレッシュ充電をしてください
	—	—	バッテリーが十分に充電されていますか	[リチウムイオンバッテリーの場合] 新しいバッテリーに交換する必要があります。当社までご連絡ください [ニッケル水素バッテリーの場合] リフレッシュ充電をしてください
—			—	外気温が下がっていませんか
走行距離が短い、スピードが出ない	—	—	バッテリーが十分に充電されていますか	[リチウムイオンバッテリーの場合] 新しいバッテリーに交換する必要があります。当社までご連絡ください [ニッケル水素バッテリーの場合] リフレッシュ充電をしてください
	—	—	外気温が下がっていませんか	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります



こんなとき	警告ランプ	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行距離が短い、 スピードが出ない	—	—	重い荷物をのせていたり、 坂道を走行していませんか	負荷が大きくなると走行距離も 短くなります
電動アシスト 走行中 手動操作が重い	—	—	バッテリーが切れていませんか	バッテリーを充電してください
	—	—	バッテリーが正しく 差し込まれていますか	バッテリーを正しく 差し込んでください
	—	—	ハンドリムに力を加えたまま 電源をオンにしていますか	ハンドリムから手を離し電源を切っ て再度電源を入れてからやり直して ください。直らない場合は 当社までご連絡ください
	—	—	オートパワーオフで 自動的に電源が切れたままに なっていませんか	電源をオフにしてから 入れ直してください
	6回点滅	ピーッ	カプラーが外れていませんか	左側駆動輪の裏側にあるカプラーを 正しく接続してください
異常な振動や 異音が出る	—	—	車軸取付け部がゆるんで いませんか	当社までご連絡ください
	—	—	駆動部から異音がしませんか	当社までご連絡ください
	—	—	車いすフレームやフロント キャストにガタつきは出て いませんか	当社までご連絡ください


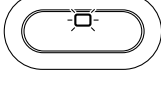
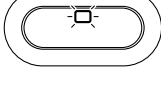
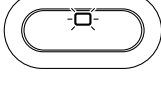
### 充電時（リチウムイオンバッテリー）

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電できない	消灯 	消灯	電源コードが接続されて いますか	接続してください
	赤の点灯 	消灯	—	バッテリーの故障が 考えられます。 当社までご連絡ください
	赤の点滅 	消灯	バッテリーと充電器を 再接続後同じ現象が 出ますか	バッテリーと再接続後同じ 現象が出る場合バッテリー の故障が考えられます。 当社までご連絡ください

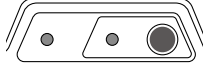

●：消灯

☉：点灯

☼：点滅

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電待機中が 続く	緑の点滅 	残量表示ランプ が点灯	バッテリーの温度が 適温ですか	適温になるまで 待ってください
			周囲温度が適温ですか	充電適温場所で 充電してください
充電器が高温に なる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	—	充電器は50℃くらいに なる場合がありますが、 異常ではありません
バッテリーが 異常に高温に なる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	—	充電をすぐに中止して 当社までご連絡ください
充電器から異臭 がする	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	使用開始直後ですか	開始直後は臭うことが ありますが、徐々に 臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を 中止してください。充電器 の故障が考えられます。 当社までご連絡ください

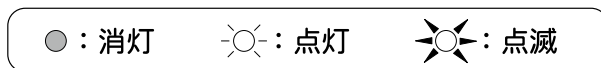
### 充電時 (ニッケル水素バッテリー)

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電できない	消灯 	消灯	電源コードが接続されて いますか	接続してください
			—	他のバッテリーで充電 できなければ、充電器の 故障が考えられます。当社 までご連絡ください
			—	バッテリーのヒューズが 切れている可能性が あります。当社までご連絡 ください
	緑と橙が 交互に点滅 	消灯	—	他のバッテリーで充電 できなければ、充電器の 故障が考えられます。当社 までご連絡ください

● : 消灯      ☀ : 点灯      ☀ : 点滅

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電待機中が 続く	緑の点滅 	残量表示ランプ が点灯	バッテリーの温度が 適温ですか	適温になるまで待つて ください
			周囲温度が適温ですか	充電適温場所で充電して ください
充電が途中で 終わる	消灯 	残量表示ランプ が途中まで点灯	バッテリーの温度が 上がっていませんか	バッテリー温度が 下がってからもう一度 充電してください
充電時間が長い	橙の点灯 	残量表示ランプ が点灯、 順次消灯	リフレッシュ充電をして いますか	バッテリーの放電中です。 リフレッシュ充電は 3～15時間かかることが あります
充電が完了したが ランプが全部 つかない	消灯 	残量表示ランプ が途中まで点灯	バッテリーが劣化して いませんか	使用回数や使用日数を 確認してください
充電器から音が 出る	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	冷却ファンが回る音が していますか	充電器を冷却しています。 充電器の状態でファンが 回ったり止まったりします
充電器が異常に 高温になる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	冷却ファンが回る音が していますか	充電器は50℃くらいに なる場合がありますが 冷却ファンが作動して いれば正常です。 冷却ファンが作動しない 場合は当社までご連絡 ください
充電器から 異臭がする	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	使用開始直後ですか	開始直後は臭うことが ありますが、徐々に 臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を 中止し当社までご連絡 ください

※ チェックしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社までご連絡ください



# 13仕様

※下記寸法はシート(座面)を基準とした寸法です

製品名	アクトモア レボリア						
	リチウムイオンバッテリー			ニッケル水素バッテリー			
座幅	37.5cm	40cm	42.5cm	37.5cm	40cm	42.5cm	
本体外形	全長	83~89cm					
寸法	全幅	59cm	61.5cm	64cm	59cm	61.5cm	64cm
	全高	79.8~93.3cm					
座面奥行き	37~42cm						
前座高	40.5~44.5cm						
後座高	40.5~44.5cm						
車軸位置	9ヶ所						
バックサポート(背シート)角度	92~98度(※車軸位置によって異なります)						
アームサポート(肘置き)	17~32.5cm(脱着式)						
フットサポート(足置き)高 ※地上高より5cm上げた状態の寸法です	33.5~36.5cm(脱着式)						
折りたたみ時寸法	35cm						
重量(バッテリー含む)	32.1kg			31.4kg			
キャスト径	5インチ(ソフトタイヤ)						
駆動輪径	22インチ(エアータイヤ)						
バッテリー(マイコン内蔵型)	ESB1(25V11.2Ah) × 1個(5時間率)			JWB2(24V6.7Ah) × 1個(5時間率)			
充電器	ESC1もしくはESC2 〈定格出力29.2V・3.0A(充電時)〉 マイコン制御による自動充電			JWC-2 〈定格出力29V・2.6A(充電時)〉 マイコン制御による自動充電			
駆動モーター(ACサーボモーター)	24V120W × 2(30分定格出力)						
駆動方式	後輪直接駆動						
制動方式	制動アシスト+手動車いすブレーキ						
操舵方式	左右ハンドリム操舵						
制御方式	マイクロコンピューター制御						
実用登降坂角度	6度						
連続電動走行距離 ※バッテリー満充電、常温25℃、 直線平坦路連続走行時の場合	約40km			約20km			
使用者最大体重(積載物も含む)	100kg						
材質	フレーム:アルミ、座面:ポリアミド系樹脂						
オプション	エレベーターフット・レッグサポート、折りたたみ式延長ブレーキ						

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

## 株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー  
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002  
千葉県千葉市美浜区新港 42-4  
TEL.043-301-8338



### ●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店